擁壁・のり面等被害状況調査・ 危険度判定票作成の手引き

令和4年11月

被災宅地危険度判定連絡協議会

このマニュアルでは、被災宅地危険度判定制度を迅速かつ的確に活用し、その目的である2次災害の軽減・防止・住民の安全確保を確実に行うために、**擁壁・のり面等被害状況調査、危険度判定票作成の手引き**の作成について、具体的に手順等を示している。

なお、実際の判定実施にあたっては、このマニュアルに記載している事項がそのまま該当しない場合もあると思われるので、このマニュアルを参考に 臨機応変の処置をとっていただきたい。

目 次

1	被害状況調査・危険度判定票の原則	1
2	調査票(共通)の記入欄の説明及び記入方法	1
3	調査票(様式一1、2)の記入欄の説明及び記入方法	
	1 擁壁、のり面等共通	
	2 擁壁(様式-1)	
	③宅地地盤・のり面・自然斜面(様式-2)	7
4	危険度判定結果のステッカーによる現地表示等	9
5	宅地地盤全体の被害及び危険度判定	11
6	調査票の記入例とステッカー	12
調]査票	13
(様	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	14
(様	式一2) 宅地地盤/のり面・自然斜面	
	被害状況調査・危険度判定票	16
(参	考)様式一3 擁壁・のり面の崩壊に伴う影響範囲図	18
	查票記入例	
記	· 入例 1 (様式 一 1)	20
記	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	22
記	· 1. 1. 2. 2. 2. 2. 3. 3. 3. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4.	24
記	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	26
記	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	28
記		30
記	 !入例 7	32
記	<u></u> !入例 8	34
坐川与	ポステッカ━(危除字地・悪注音字地・調杏済字地)	35

擁壁·のり面等被害状況調査·危険度判定票作成の手引き

1 被害状況調査・危険度判定票の原則

- (1)被害状況調査・危険度判定票(以下「調査票」という。)の作成は、被災宅地1宅地につき1枚作成することを原則とするが、調査宅地数、調査時間等の都合により困難な場合は、連続している数宅地について1枚に記入することができる。
- (2) 同一宅地における他の調査票の記入は、共通事項について省略してもよい。
- (3) 広範囲にわたる地すべり等の場合は、被害状況図の平面図の記載を1枚の住宅地図上に行ってもよい。ただし、判定票と一緒にしておくこととする。
- (4)無被害の場合は、「簡易記録」として被災状況図は省略してもよい。ただし、調査箇所が分かるよう住宅地図上に判定結果を記載し、全景写真のみ撮影をすること。
- (5) 調査票への記入は、現地踏査時に行うことを原則とする。これは、現地踏査終了後 の資料整理時に行おうとすると、多数の被災宅地を調査する場合、記憶違いや調査も れなどによる誤りが生じやすいためである。
- (6) 調査票への記入は、調査チームで担当を決め効率よく記入するとともに、整理に当たっては、調査チームの担当者間で確認するものとする。
- (7) 記入した調査票をもとに、その結果を集計した一覧表を作成する。 一覧表は件数、地区名、住所、簡単な被災状況などがわかるようにしておく。

2 調査票(共通)の記入欄の説明及び記入方法 (表-1参照)

- (1)調查番号
 - ・被災宅地を1宅地毎にカウントし連番を付ける。
 - ・連続する数宅地を調査票1枚に記入する場合も1宅地毎にカウントする。こうすることによって、被災宅地数の合計が容易に得られる。【記入例:3~7(5 宅地)】
 - ・重複して付番しないように注意する。調査チーム毎に簡単な番号を工夫することが 望ましい。【例:A チーム-1】

(2)被害発生場所

- ・調査の対象とする場所(被災現場)の住所を住宅地図、地形図及び現地で確認して記入する。
- (3) 所有者・管理者氏名、連絡先
 - ・被災現場(土地、建物等)の所有者又は管理者の氏名を住宅地図や現地の表札等で確認の上記入する。
 - ・電話番号は、後日の連絡等に必要な場合があるので、現地において確認できる範囲 で記入する。
 - ・所有者等が明らかに避難しているような場合には、その旨記入するとともに、確認 できる範囲で避難先、連絡先も記入する。

(4) 記入者氏名·TEL

・被災宅地危険度判定士など他県からの応援者が記入者となることがあるため、後日 の連絡用に電話番号を記入する。

(5) 居住者への説明

・居住者への調査結果の説明が済んでいるのか、未了なのかを記入する。また、居住 者不在(避難していて不在である場合等)なのか、老人の一人暮らしなのかをチェッ クする。

(6) 応急措置

・済んでいるのか、未了なのかチェックする。済んでいる場合は、その内容を「特記 事項」の欄に記入する。

(7)被災状況図

- ・現場のスケッチや説明、気付いたことを記入する。
- ・無被害の場合は、「簡易記録」として被災状況図は省略してもよい。ただし、調査箇 所が分かるよう住宅地図上に判定結果を記載し、全景写真のみ撮影をすること。

①被災項目

・並んでいる図(1~11)から該当するものを○で囲む(複数可)。

②平面図

- ・住宅地図及び地形図から被災現場周辺を切り抜き、被災現場を○で囲み、貼り付ける。
- ・手書きの場合は、周辺の状況が分かるように(道筋や目印になる建物等)書くこと。
- ・被災状況も記入する。

③断面図

- ・高さ、長さや範囲がよく分かるように、また、被災状況を分かりやすく書く。
- ・擁壁上下の家屋までの最短距離を必ず記入する。
- ・家屋については、用途(住宅、非住宅等)・構造(木造、RC 造、プレハブ、鉄骨等)・ 階数等がわかる範囲で記入する。
- ・断面図だけでなく、正面図や立体図も必要に応じて書き入れる。また、被害状況の 説明も記入する。

項目 記載内容 調査日時 年 月 日 時 調査番号 地震名又は降雨災害名 区町村 都道府県 市郡 被害発生場所 丁目 地区 団地 号 番 所有者・管理者氏名 所有者・管理者の連絡先 Tel: 記入者氏名 Tel: 居住者への説明 □ 済み □ 未了 居住者不在 □ 老人独居住宅

表-1 調査票の共通事項

(8) 被災写真の有無・写真番号

・被災写真の有無をチェックする。有の場合は、写真番号を記入する。写真は後日プリントする場合もあるため、写真番号と調査番号を一致させる等工夫することが望ましい。【例:A 班チーム-1-1~1-4】

(9) 特記事項

特記事項としては、以下のような事項を記載する。

・その被災状況によって、今後予想される危険性

・調査票に記載されている工種、項目以外の被災

例:樹木、電柱の倒壊あり

離れの車庫が倒壊et

- ・応急措置がとられている場合にはその内容
- ・応急措置がとられていない場合は取るべき措置
- ・居住者の方への緊急措置などアドバイスした事項

例: 庭先の地盤のクラックはブルーシートを被せて雨水の侵入を防いでください。 裏山の湧水は、溝を掘って水を脇に逃がしてください。

擁壁の天端にブルーシートを掛けてください.....etc

・被災宅地周辺の状況

例:周辺一帯の液状化

被災宅地の脇の道路が滑り崩壊etc

3 調査票(様式-1、2)の記入欄の説明及び記入方法

無被害の場合は、「簡易記録」として被災状況図は省略してもよい。

1 擁壁、のり面等共通

- (1)被害の判定値
 - ・被害の判定値は、変状形態と配点表のチェックした中の最大値を採用する。

(2) 危険度判定

・被害の判定値をもって、危険度判定を行う。

「無被害:防災上の問題はない。避難等の必要なし。

小被害:変状等が見られるが、当面は防災上の問題はない。避難等の必要なし。

中被害:変状等が著しく、当該宅地に立ち入る場合は、時間、人数を制限するなど十分注意する。また、変状が進行しているようであれば、避難も必要

である。

大被害:変状等が特に顕著で危険である。避難、立入禁止措置が必要である。

(3) 所見(記入者の意見)

無被害の場合は記載しなくてよい。

- 1)緊急度
- ・以下を参考にチェックする。

大→すぐに措置しなければならない。

明らかに交通が困難な状況で家屋等個人の財産が崩壊しており、そのまま放っておくと構造物や人命に危険が及びそうな二次的災害が起こり得るもの。

中→ある程度の日数は放置しておくことができる。

やや交通が困難で、家屋等個人の財産に被害が見受けられ、長期間放っておくには危険すぎると思われるもの。

小→ある程度の期間は放置しておくことができる。

交通はさほど困難ではなく、家屋等にもあまり被害は見受けられない。構造物 や人命に対して危険ではないもの。

- 2) 拡大の見込み
- ・「拡大の見込み」の有無の判断は、危険度の評価、緊急度及び現場の状況等を総合的 に勘案して該当するものをチェックする。

ここに示す「拡大の見込み」は、被害そのものが今後どのようになるのか、収束 するのか、拡大するのかを考慮し、拡大をする場合の「拡大の見込み」として判定 士が記入するものである。判定士が記入する拡大の見込みの「有・無・判断不可」 については、危険度の評価、緊急度、現場の状況、今後の天候の見込み、余震の継続、被害箇所周辺の施設など、総合的に勘案して「評価」し記入する。

以下に、「拡大の見込み」について例示する。

【擁壁関係】

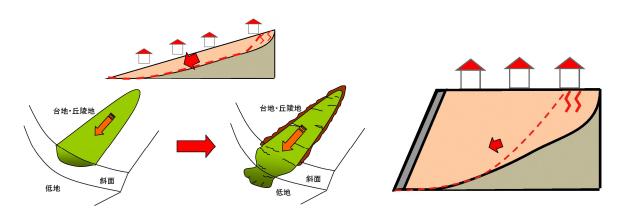
- ①地震も継続しており、擁壁の耐力が失われる可能性がある。
- ②既存不適格擁壁でかなり損傷を受けており、余震の継続で倒壊の恐れが大きい。
- ③擁壁の折損度合いが大きいので、余震継続で拡大の恐れが高い。
- ④擁壁天端の背面地盤に大きなクラックがあり、降雨や余震の継続によって、円弧滑りが発生することが予測される。

【宅地地盤関係】

- ①地盤のクラックが大きく、ブルーシートなど応急措置が実施されていないので、宅地に滑り被害が拡大しそうである。
- ②地下が石炭の採掘跡で、その陥没が大きく、陥没エリアが拡大しそうである。
- ③ 擁壁が倒壊しそうで、宅地まで大きな円弧滑りが発生しそうである。
- ④大きな沈下で、家屋が浮き上がっている。家屋の倒壊の恐れがある。

【のり面・自然斜面関係】

- ①のり面ののり肩のクラック、中段部のハラミが大きく、予想される降雨で滑り崩壊 しそうである。
- ②大規模な谷埋め盛土崩壊が進行している。(図-1参照)
- ③大規模な腹付け盛土崩壊が進行している。(図-1参照)
- ④湧水が多く、のり面が湿潤状態(飽和状態)である。滑り崩壊しそうである。
- ⑤小さな落石が継続して発生している。今後大きい落石が懸念される。
- ⑥のり面は一見大丈夫そうだが、相当緩んでいると思われる。週間天気予報では雨の 予報もあり、のり面下の学校に影響がありそうだ。
- ⑦自然斜面からの湧水が多く、宅地のクラックにしみ込み、のり面全体が滑りそうで ある。
- ⑧裏山の表層が滑ってはらんでいる。このままでは、滑り落ち宅地に流れ落ちる。



(a)谷埋め型大規模盛土

(b)腹付け型大規模盛土

図-1大規模盛土造成地で発生する滑動崩落

谷埋め型大規模盛土造成地は、谷を埋めて宅地用の平坦面を確保した谷埋め型大規模盛土造成地において、主として地震時に宅地造成前の谷底付近をすべり面として大規模盛土造成地全体または、大部分が斜面下部方向へ移動する可能性がある。また、

腹付け型大規模盛土造成地傾斜地盤上などにおいて、高い盛土を行った腹付け型大規模盛土造成地において、主として地震時に大規模盛土造成地全体または、大部分が斜面下部方向へ移動する可能性がある。

(4) 複合被害の場合

擁壁・宅地地盤、擁壁・のり面等の複合被害がある場合は、(様式-1)と(様式-2)の両方の帳票を用いて判定を行う。ただし、(様式-1)と(様式-2)のうち共通する部分(例えば「被災状況図」など)と擁壁の危険度判定については(様式-1)に記入し、のり面の危険度判定については、(様式-2)に記入するものとする。

|2| 擁壁(様式-1)

(1) 擁壁の基礎的条件(表-2参照)

①擁壁の種類

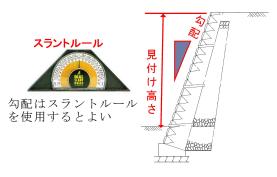
- ・該当する擁壁の種類をチェックする。
- ・その他の場合は、[]内にその種類を記入する。
- ・コンクリート系擁壁の場合、現場打ちかプレキャストかもチェックする。
- ・増積み擁壁の場合は増積み部分とその下の本体部分の擁壁の種類を[]内に記入し、 さらに擁壁高さについては、全擁壁高さと増積み部分の擁壁高さを記入する。
- ・二段擁壁の場合は、上段と下段の種類と高さを記入する(写-1参照)。

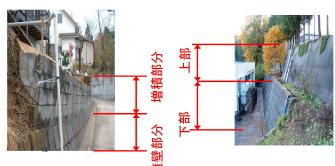
②擁壁の設置条件

- ・ 擁壁の背面土は、擁壁の安全性に関与していると考えられるが、のり面のように目 視で確認することが困難なことも多いため、擁壁の設置条件として、切盛境に位置 しているか、軟弱地盤上にあるかをチェックする。分からない場合は不明をそれぞ れチェックする。
- ③擁壁の勾配 (写-1参照)
- ・ 擁壁の勾配をスラントルール(勾配儀)等による簡易計測により記入する。

擁壁の種類 擁壁の状況 □ L型(逆T) □ 重力式 □ もたれ式 □コンクリート □ その他〔 系擁壁 □ プレキャスト □ 現場打ち □練石積擁壁 □ 間知石 □ コンクリートブロック □その他 □ 玉石積 □ くずれ石積 □ 間知石 □空石積擁壁 □ その他 増積部分〔 □増積み擁壁 擁壁部分 擁壁全高 増積高 m m 上部 〔 下部 〔 □二段擁壁 上部高 下部高 m □張出し床版付擁壁 □ その他〔 擁壁の設置条件 □切土・盛土境界 □軟弱地盤上 □他 □不明 擁壁の勾配 度

表-2 擁壁の基礎的条件





(a) 一般の擁壁高さ(見付け高さ)

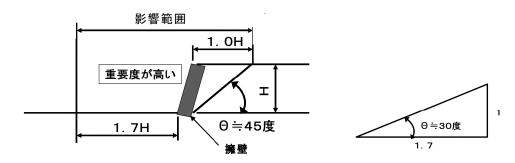
(b)増積み擁壁の高さ

(c)二段擁壁の高さ

写一1 擁壁高さの表し方

④建物と道路との位置関係

・擁壁に対して、建物・道路が $\mathbf{Z}-\mathbf{Z}$ の何処に位置するかを把握し、基礎点を配点する。



ケースA:影響範囲に建物·道路が存在する ケースB:影響範囲に建物·道路が存在しない

図-2 建物、道路との位置関係

⑤湧水

・背面の地下水が排水施設により十分処理されている限りは安全性が保たれていると も考えられるが、排水施設の不確実性を考慮し湧水の有無をチェックする。有りの 場合、湿潤か、にじみ出し・流出かをチェックする。

乾燥:表面並びに目地等が乾燥状態である場合

湿潤:ブロック表面は乾燥状態であるが、目地等にコケ、雑草が生えている状態にじみ出し・流出:水抜孔、目地等から流出があるなど背面に水の存在が確認できる場合。

⑥排水施設

・背面の地下水の排水処理が不十分で倒壊する擁壁が多いと一般的に言われているため、排水施設の設置状況を天端付近の排水施設と水抜孔の状況により区分した表-3によりチェックする。

表-3 排水施設の設置状況分類表

分類	内容	模 式 図
(イ)タイプ	水抜孔及び天端排水溝があるか天端付近で表面水の地盤への浸透が阻止されている場合	VIIVII - VII
(ロ)タイプ	水抜孔はあるが、天端付近で表面水が浸透しやすい状況にある場合。	W/V/I
(ハ)タイプ	水抜孔が設置されていないか、あっても宅地造成等規制法及び都市計画法の基準を満たしていない場合 $(1 f) 3 \text{m}^{\dagger} \phi \geq 75$ mm) ただし、空積みの場合は対象外とする。	SIPSIT

⑦擁壁の見付け高さ(写-1参照)

- ・擁壁の見付けの高さ(地上高さ)の最大値が該当する部分の点数を○で囲む。
- ・既存資料又は現地における簡易計測によるが、不可能な揚合は目測で記入する。

(2) 変状形態と配点表(被害の判定値の出し方)

- ・判定値としては10点を最大点とする。
- ・擁壁の種類を判別する(練積み、増積み、コンクリート(プレキャスト含む)、二段、張 出床版付擁壁)。
- ・擁壁の変状項目を判別する。
- ・擁壁の変状の程度「大・中・小」の概要説明による判断をする。
- ・変状のチェックは複数付けても良い。
- ・変状の数値の最大値をもって、被害の判定評価とする。

|3| 宅地地盤/のり面・自然斜面(様式-2)

(1) のり面の基礎的条件

①地盤

- ・ 擁壁の背面土とは違い、目視で確認することができるので、岩であれば軟岩、硬岩であるか、土砂であれば礫質土、砂質土、粘性土のいずれかをチェックする。分からない場合は不明をチェックする。
- ・礫質土、砂質土、粘性土の判別は下記を目安にする。

礫質土:日本統一土質分類では、径 2 mm以上を礫としているが、径 5~10 mm程度以上の礫が混入しているもの。

砂質土:一般に山砂と呼称されるもの。粘性土との判別に迷うときは手に付けてみて、粘り気がなく乾くときれいにとれるもの。

(例:山砂、マサ土、稲城砂、シラスなど)

粘性土:一般に粘性が強く、湿潤状態になっているもの。色調は黒~暗茶系が多い。 (例:粘土、シルト、関東ロームなど)

②のり高

- ・のり面の高さを既存資料又は現地測定(のり長さと勾配の関係)により記入する。 不可能な場合は目測による。
- ・のり高は最大高さを記入し、平均のり高さを()内に記入する。
- ・複合のり面は擁壁の高さを含み、うち擁壁の高さは()内に記入する。

- ③のり面勾配
- ・既存資料又は現地測定(スラントルール等)により、のり面勾配を記入する。
- ④のり長さ
- ・のり面の長さを記入する。
- ⑤オーバーハング
- ・自然斜面の場合、オーバーハングの有無をチェックする。
- ⑥排水施設
- ・のり肩、小段の排水施設の有無をチェックする。ただし、のり尻排水施設は含まない。
- ⑦のり面保護工
- ・のり面保護工の有無をチェックする。有であれば、植生工であるか、構造物による ものであるかをチェックする。
- ⑧擁壁配置
- ・複合のり面の場合、擁壁がのり面の上部、中部、下部のどこに設置されているかを チェックする。
- ⑨家屋の有無
- ・当該のり面・自然斜面の上部又は下部に家屋が有るか無いかをチェックする。

(2)変状形態と配点表

- ①宅地地盤
- ・1 クラック~6 湧水まで、大・中・小(又は有・無)の宅地地盤の変状にあてはまると ころの点数を○で囲む。○のチェックは複数でも可能で、同じ項目での複数チェッ クも可能である。(一つの項目で大・中・小すべてをチェックしてもよい。)
- ・湧水がある場合は、さらに1点加える。
- ②のり面・自然斜面
- ・1 クラック~8 湧水まで、大・中・小(又は有・無)ののり面、自然斜面の変状にあて はまるところの点数を○で囲む。○のチェックは複数でも可能で、同じ項目での複 数チェックも可能である。(一つの項目で大・中・小すべてをチェックしてもよい。)

4 危険度判定結果のステッカーによる現地表示等

判定士は、調査票による被災宅地危険度判定結果から**写-2**に示すように被災程度に応じたステッカーで現地表示を行う。ステッカーを添付する場所は、その宅地に出入りする人、その宅地の周辺の人が目に付きやすい場所とし、玄関先、塀、擁壁、車庫などにガムテープ、針金などで貼り付け、風などで飛ばないようにする。

なお、雨が当たりそうな箇所では、ビニールなどで覆うとよい。

ステッカーには、図-3に示すように以下の内容を簡潔に記入する。

- ①何が危険であるか
- ②判定日時
- ③宅地危険度判定実施本部の連絡先

無被害の場合は、「簡易記録」として記載を省略してもよい。

ステッカーは、居住者が居る場合では、「危険であること知らせる」という意味を良く説明し貼るとよい。居住者がステッカーを貼ることを拒む場合は、この旨調査票に記述し、危険であることを十分に説明するとよい。

被災擁壁の現地表示は、図-4に示すように該当箇所に判定ステッカーを布製ガムテープ等で貼り付ける。

また、のり面等の現地表示は該当箇所に表-4に示すように判定ステッカー(ビニール被覆)を針金ピン(足場番線 $\#10\times70$ cmを代用)等で固定する。それらが難しい場合には付近の電柱に布製ガムテープ等で貼り付けたり、針金ピン(足場番線 $\#10\times70$ cmを代用)でクラックのある石積等にも取り付けるなどの方法がある。





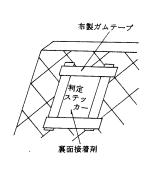


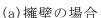


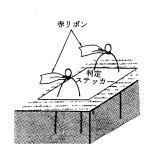
写-2 危険度判定ステッカーの添付事例



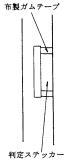
図-3 危険度判定ステッカーの記入例







(b)のり面の場合



判定ステッカー

(c) 電柱の場合 (d) ガムテープの張り つかない石積みの場合 (クラック等の隙間に差込む)

赤りボン

図-4 判定ステッカーによる現地表示方法(例)

表一4 判定ステッカーの貼付表示材内訳(例)

用紙の大きさ	A3 版	(297×417)またに	t A4 版(210×297)						
	判定	表示	色						
	大	危険宅地	赤(蛍光オペラ)						
用紙の表示	中	要注意宅地	黄(蛍光オレンジ)						
	小	調査済宅地	妻(労业づれ二)						
	無	詗 宜伢七地	青(蛍光ブルー)						
	ビニール被覆ステッカー裏面接着剤付き								
ステッカー	布製ガムテープ								
貼付材料	針金ピン (足場番約		線(3.2 mm)×70 cm)						

5 宅地地盤全体の被害及び危険度判定

宅地地盤全体に被害が及んでいる場合は、地滑りや地盤の側方流動などが考えられる。 以下に示すこのような場合にあっては、マニュアルの関連部分を参考に被害状況の調査を 行い、調査票に記録し、状況に応じて地滑り、地盤工学等の専門家に支援を受けるべく、 災害対策本部に報告する。

- ①宅地地盤全体に及ぶ被災が確認された。
- ②個々の宅地被害状況を整理すると、亀裂の方向などに連続性がある。
- ③宅地地盤ののり尻に隆起が認められる。(写-3(a)参照)
- ④宅地地盤の斜面上、のり肩及びその後方に亀裂が認められる。(写-3(b)参照)
- ⑤大量の湧水が認められる。
- ⑥長い距離に及ぶ擁壁のハラミ、水平亀裂が認められる。
- ⑦各宅地の滑りが沢筋状に連続し、側方移動し、谷埋盛土崩壊状態である。(①の形態も 含む)
- ⑧数戸の宅地を巻き込む大規模かつ斜面全体の崩壊で、腹付け盛土崩壊状態である。(① の形態。③、④はこの前段の状態)(写-3(c)参照)
- ⑨液状化による宅地地盤の崩壊が広範囲に広がっている。また、側方流動の状態を示す。 (写-3(d)参照)



(a)のり尻の隆起



(b)のり肩の亀裂



(c) 腹付け盛土の崩壊



(d) 液状化による側方流動

写-3 宅地地盤の被害事例

6 調査票の記入例とステッカー

調査票の記入例を以下に示す。

①記入例1:擁壁の無被害【「簡易記録」の場合】

②記入例2:擁壁のハラミとクラック、傾斜

③記入例3:のり面の無被害【「簡易記録」の場合】

④記入例4:宅地地盤の陥没とクラック

⑤記入例5:のり面の崩壊 ⑥記入例6:のり面の滑落

⑦記入例7:のり面の崩壊(大規模崩壊)

⑧記入例8:擁壁・のり面の崩壊に伴う影響範囲図

また、ステッカーを以下に示す。

①<mark>危険宅地:UNSAFE</mark>

②<mark>要注意宅地:LIMITED ENTRY</mark>

③調査済宅地: INSPECTED

【参考-1】擁壁・のり面の崩壊に伴う影響範囲図[(参考)様式-3]

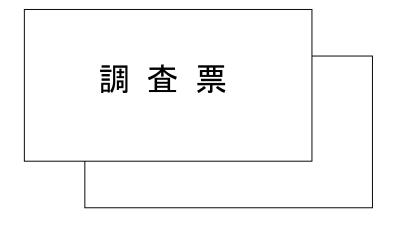
「被災宅地の調査・危険度判定マニュアル」の 〈参考-1〉 崩壊による影響範囲のとおりである。

(参考文献)

- ①のり面・擁壁の安全性に関する点検手法判定基準等の策定にかかる調査研究報告書昭和60年1月住宅・都市整備公団委託、社団法人土質工学会
- ②震災構造物の復旧技術の開発報告書(建設省総合技術開発プロジェクト)第3巻建築物の復旧技術マニュアル(案)

昭和61年3月建設省

- ③宅地造成地における地震発生後の緊急対応マニュアル 平成7年10月住宅・都市整備公団技術管理室
- ④静岡県人工造成地における擁壁等の応急危険度判定マニュアル(案) 平成7年3月財団法人日本建築防災協会、財団法人マニュアル策定委員会



(様式-1)擁壁被害状況調查·危険度判定票

調	査	票	調査日	時	年	月		日	時	調査番号			
印川	工	示		又は降雨災									
被害発生	:場 所			都道府员			市利				区	町 村	
マナセ 然 れ	田水げみ				区団地		1	丁		番		号	
所有者・管理		<u> </u>			_	者氏名	□済		TEL	<u>. </u>			
所有者・管 連 絡		TEL:			店任 ⁷ 説	者への 明	山街	口未	: 」 □居住者 ^{>}	不在 □	老人犯	由居住宅	ì
		<被	災北	犬 況	図>	>	,		応急措置 □被災無				
1.クラック	2.水平和	多動 3-1.7	下同沈下	3-2.目地の開	1き 4.ノ	ヽラミ	5-1.傾	斜	5-2.倒 均	裏 6.擁壁の	り折損	7.崩	壊
37		-	1		<u>.</u>				\$ 100 miles		/		5
8.張出し床版付擁	壁の支柱の損	傷 9.基礎及	び基礎地盤の	の被害 10.排	水施設の	変状			建物・	道路との位	置関係	系(基礎)	点)
	7			748				9	影響範囲外(B)		(A) 1. 0H	影響範囲外	(B)
※簡易記録を							11 da 391.	L))) t	1.7H		ID D4 1	
ただし、調査	全箇所が	分かるよう)判定結集	きを住宅地 図	当上に記	【載し、	被害が無	いこ	とが確認て	きる全景	写真を	撮影する	3.
		[平	面図]						[断面図]			
被災写真の) 有無 [□無		>写真番号	[]
特記事項													
19 80 345	-												
1													

瘞				□L(逆T)型 □もたれ式							責み擁	纮			籍語が 経験部分]
擁壁		□コンクリート	系擁壁	□その他						□増化	貝の大批	至			*経壁高			m	増設	高		m
の基礎的条	擁壁の種類			□場所打ち		コプレキ	ャスト								·部[•			них]
基	あ	□練石積擦	本日本	□間地石		ココンク!	ノートブロ	ツク			没擁壁			7	部[]
的	種粗	□飛行負換	眰	□その他[]						部高		m	;下部	高			m
条	75		. m. f.	□玉石積		コくず	れ石積			_	出し床		壁	_]その((t.r →→ r.t	60. L -]
件		□空石積據		□間地石 □その他[1		の設置の	条件		L	J切土 ·	・盛士 [」] 度		軟弱地 (1	盤上し	」他 L	小明	1
									一旦終		ご建物ま	たけば	吹がなる	<u> </u>	1基/郷盆		又は 物またに		:/al.v(B))
			乾燥						□駅行	斉 即	<u>- 建初ま</u> ()	たは坦	的 <i>((*α)</i> ′ ′ ′ ′ ′ ′ ′ ′ ′ ′ ′ ′ ′ ′ ′ ′ ′ ′ ′	<u> </u>	小形音吧	団に建	0	以旦岭か	1/3 ((D)	-		
	1	湧水	湿潤								0.4						0.2					
++-				出し、流出							0.8						0.4				基礎。	制
基				有、天端排水							0						0				1)+2	+3
礎	2	排水施設		有、天端は表				\ <u>\</u>			0.4						0.2				_	_
L .			水扱扎 H≦1m	<u>無</u> あっても	数• 、	「法か	个週当				0.8						0.4			-		
点			1m <h< th=""><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th>0,2</th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th>0.1</th><th></th><th></th><th></th><th>_</th><th></th></h<>								0,2						0.1				_	
	3	高さ	3m <h< th=""><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th>0.4</th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th>0.2</th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th></h<>								0.4						0.2					
			4m <h< th=""><th>[≦5m</th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th>0.6</th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th>0.3</th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th></h<>	[≦5m							0.6						0.3					
		_	5m <h< th=""><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th>0.8</th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th>0.4</th><th></th><th></th><th>丄</th><th></th><th></th></h<>								0.8						0.4			丄		
区分	項			程度	コンクリ	練積		2段	張出	空巷	コンクリ	維持	増積	2段	張出	空積	マル加	練積	増積	て 2段	張出	空積
74	1	<u>ロ</u> クラック		19位于71生大只	1	2	3	4	5	土頂	2.5	3.5	4	5	7	王頂	4	5	6	7	8	工頂
	2	水平移動			2	2.5	3.5	4	6	6	3.5	4	4.5	5	7	7	5	5.5	6	7	9	9
変状		不同沈下・	目地の開	き	3	3.5	4	5	7		4.5	5	6	7	9		6	7	8	9	10	
形	4	<u>ハラミ</u> 傾斜・倒壊			5	4.5 5.5	5 6	7	8	8	7	8	7 8	9	9	9	8	9	9	10	10	10
形態と変状	5 6	嬢壁の折損			6	6.5	7	8	9		7	8	9	9	10		8	9	10	10	10	
と 恋	7	崩壊			<u> </u>	9	9	10	10	8		10	10	10	10	9		10	10	10	10	10
		張り出し床板							7						9						10	
点		基礎及び基		被害				9			1		1									
	10 11	排水施設の 擁壁背面の		室				3						5 0					- '	7		
	-11		目/程度					小						<u>*</u> ‡					J	大		
	1	クラック(帽	i)						が、機能		1		皿未満	- I A		_		以上	t tarble -			
					支障 未満		シクリー	卜糸擁雪	壁の場合	今2 mm	(コン)		系擁壁の)場合	2mm~	~5 mm	コンク	リート系	·擁壁0	場合	5 mmL)	,_E)
	2	水平移動					隙間(変	(位)が	ある。				1未満の)隙間(変位)か	ある	50 mm	以上の)隙間(変	変位)カ	ある	
-44	(伸	縮目地前後																				
変状		不同沈下・						:下ので	ずれ又に	は目地			皿未満	–		「のず						カスは
の	(日	地上下・左	白の用さ)	の角	きがあ) ခ ့				ALX	ルコ日丸	也の開き	ינטינוצ	5 。			の角さ		、消男	小 転	到のお
程度		ハラミ			小規	模のバ	ラミア	び中担	友け(積	石が 1	宅地	地盤に	ニテンショ	シクラッ	ク無し			地盤に		ンクラッ	ク有り)
度		ンションクラック		中抜け)			落ちる		c-Fvi-	- /)のおそ			I /		すべり				Store it.
大	5	傾斜・倒壊							垂直以 ⁻ 天端 50				「地盤に 雑壁のは		-			か削傾 いるも		してそ	(/)機	能を失
中						傾斜)	E-E-97-9	у ц • У	CFIII OO	, mm	上の	傾斜)						• • •	1470			
•		擁壁の折損		S. den de ver d			にわす	かに負	角度をな	なして			に明ら					して大				
小		・ななめひ 。はらんでい		ら起きるも	いる	-	玄ヶ田辛	の担合	クラックを	を接に	1	,	け石が る。 に					ト系擁握			_	覚に削 剪断破
の概		ックを境に鈍			, , ,		傾して				1 ' '		境に前		/			あり後				ZELIK
要											る。											
要説		崩壊		性の士はの					<u>ている。</u>				見して消			L. A.A. 2.5	,,,	を果た		ない。		
明	o 損		ベクスタン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン	壁の支柱の	文性	1200	が入っ	יי) כניי	5 .			こうしょく	クリートだ	いなか	れて砂	は用力ひょ	文性	の剪断	似場。			
		基礎及び基	礎地盤の	被害	大規	模な沈	下やク	ラックカ	生じて	いる。	1 /2/0											
	10	排水施設の	D変状			.,			員がある				雍壁の	クラック	又は目	地か		孔の詰			ぶり	、排水
					は、: れる		血、舗	装面に	クラックス	ア見り	60)	ぶある。				機能	が失わ	れてい	る。		
	11	擁壁背面の)水道管	等破裂			くが流出	けしてい	いる。													
						基礎			変状点	į_				☆被	害程度	ぎの点	数と危	5険度	判定☆	7		
								+			400	被害	:	0	与(防:	∭ F.F	問題無	€ (_)				
			判定值		<u> </u>			L			''''		: 1	•			• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	/	- 1月	耳 4年	1)	
		き点に変状点の 害の場合は基					_			_								外似火	. 上 円	咫無	()	
*	灬仅	ロマノ勿口は全	处 交扒片	ベーノロロ甲及ボボレ			=			点		攸	: 4.5					_		· · · · · · ·		
																	進行し)	
		危険	度判定]中		小 1	□無	一大	被害	: 8.5	点~	(危険	、要	避難	、立.	入禁」	E)		
	所見	記記入者の意		緊急度	ロナ	ς .		中		小	'		(産・交	通の3.	点を判	定基準	とする	5。)
*	無被	害の場合は記	載無し	拡大の見込	口有	ī		無		判断不	可		(備者	ž •)

(様式-2)宅地地盤/のり面・自然斜面被害状況調査・危険度判定票

				調査日時		 年 月	日	時	調査番号]	
調	査		票	地震名又	1						
5dr de ₹		i ac		都 道	府 県	'	市 郡			区 町	村
被害発	: 生 場	j PT			;	地区 団地	_	丁目		番	号
所有者・						記入者氏名	+		TEL:		
所 有 者 •	管理:絡		TEL:			居住者への 説 明		□未了 □居住	者不在	□老人独	居住宅
		<1	坡 災	泛状	況	図>	<u>'</u>	応急措□被災		□未了 易記録	
		宅力	也 地	盤			のり	面 •	自然	斜 面	
1.クラック	2.陥没	; ;	3.沈下	4.段差	5.隆起	1.クラック	2-1.ハラミ	2-2.盤ぶくれ	3.カリー浸食	4-1.滑落	4-2.崩壊
		+			NOTE OF THE PARTY			\int		表層すべり /	円乗すべり
5.のり面係	· 護工変料	犬 6.	排水施	設の変状		-1		1	ı		1
	No.					盤・宅地のり) 面で簡易	記録をする	場合は、被	災状況図に	は省略する
	7	4			ことがで	きる。 、調査箇所な	ぶ分かろよ	う判定結果	を住宅地図	(1)上に記載	し、被害が
	枠内土砂流出 (枠浮上り)					が確認でき				3 (
			[平面	図]				[断]	面図]		
被災写真	で有無		無	□有→红	写真番号	[]
特記	事」	項									

				のり面・自然	斜面の	基礎的条件				
tel. 6	ut	岩	□軟岩□□	硬岩 □不明	オー	バーハング	□無□1	Í		
地拉		土 砂	□砂質土□礫	 質土□粘性土□不明	排力	k施設	□無□□	可(のり)	肩、小段排水)	
D	の面高		最大高	m(平均高 m)	-) 面保護工			□構造物	
	ノ山田 合のり面は擁	壁高含)	(うち擁壁高	m)	-				□のり面の中部	
മ	り面勾配		())]		- 擁星	達配置	□のり面 <i>0</i>		□全面	
	り長さ			m	家園	屋の有無				
V	7 20		<u></u>	変状形態			表	1		
	変形状態	のチェッ	ク(複数可)	小	_		中		大	
		<u>・・・・</u> ック(幅)	2 (1232 17	3 cm未満	1	3~15cm 未注 複数		3	15cm 以上又は全面	5
宅地	2 陥没	(深さ)		20 ㎝未満	2	複数 20~50 cm未	満	4	50 cm以上	6
地	3 沈下	(沈下量)		10 cm未満	2	10~25 cm未	満	4	25 cm以上	7
盤	4 段差	(段差量)		20 cm未満	3	20~50 cm未	満	5	50 cm以上	8
11112	5 隆起	(隆起量)		20 cm未満	7	20~50 cm未	満	8	50 cm以上	9
	6 湧水	、噴砂		□無 □有→+1点(上	の点数	数に1点加え	る)			
	変形状態	のチェッ	ク(複数可)	小			中		大	
	1 クラッ	ック(幅)		3 cm未満又は単数	1	3~15 cm未 数		2	15 cm以上又は全面	3
	·	(隆起量)		10 cm未満	3	10~30 cm未	満	4	30 cm以上	5
	3 ガリ-	一浸食		クラックなどが誘因 となって雨滴による 浸食が現れはじめた 段階。	6	のり面の表 にないる いるおそれ の。	など放置 被害が広	7	洞穴状や滝壺状にガ リーが進展して家屋 の基礎やのり面等の 下側に被害を及ぼす ような状態。	8
の り	4 滑落。	崩壊		部分的な表層すべり、又はのり面上部 の小崩壊。	7	表えな状大ものがある。	れたよる 置すれの はのり 面	8	全面的なすべり崩壊 で、さらに拡大のお それがあるもの、又 はのり面底部を含む 全崩壊。	9
面・自		可保護工の 正工は除く		例えば、のり枠の間 詰めいというではない。 がいるでは、 がいるでは、 がいるでは、 がいるでは、 がいるがでするが、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	7	例えば、の 分かクリックラッカン クラッずれが れる。	。又はコ 吹付工の 部分で陥	8	例えば、のり枠の浮上り破壊。又はコンクリート吹付工のラス金網が露出し、面にしている。 というないでは、 といっと、 というないでは、 といっと。 といっと。 といっと。 といっと。 といっと。 といっと。 といっと。 といっと。 といっと。 といっと。 といっと。 といっと。 といっと。 といっと。 といっと。 といっと。 といっと。 といっと。 といっと。 といっと。 とっと。 と	9
然斜面	6 排水加	施設の変物	<u></u>	天端排水溝にずれ、 欠損がある。又は、天 端背面、舗装面にク ラックが見られる。	3	左に加え、 クラック、 からの湧水	又は目地	5	排水溝が破断沈下す るなど、排水機能が 失われている。	7
Щ	7 のり面	i内の水道 ¹	 等等の破裂	破裂して水が流出して	いる。					8
	8 湧水、	落石・軸	云石	□無 □有→+1 点(上	の点数	に1点加える	3)			
	※無被害の場	合は基礎・変	直を加えた点数 対大点の記載無し 		点 	山地宝・	0 点(1)	防災上 当面は	数と危険度判定☆ 問題無し) :防災上問題無し) き立入。進行していれば過	2. 基件
		危険度半	川定	口大 口中 口小	□無				要避難、立入禁止)	L 天比 /
	所見記入		緊急度	口大 口中 口	小	(人命	• 財産 • 亥	を通の	3点を判断基準とする。)
	※無被害の場合	計は記載無し	拡大の見込	□有 □無 □≒	判断不	河 (備考	:)

(様式-3) 擁壁・のり面の崩壊に伴う影響範囲図 地震名又は降雨災害名

地震名又は降雨災害	5名				調査番号	
│ 小 被) 危険度評価区分 坡 害	影]	災箇 Dı(n	1)	
大被	坡 害	響	攸 :]	災範 D ₂ (n	12±1 n)=D₁+H	
「擁壁 高さ		範	ماد	下	L1(m)	$\begin{cases} \alpha < 45^{\circ} : 0.6H \\ 45^{\circ} \le \alpha < 60^{\circ} : 0.9H \end{cases}$
雅 E E		囲	水		β < 15°	(60° ≤ :1.3H)
 擁 H(m) ・ が が が が が が が が が が が が が が が が が が が		Ø	平距	端	$\begin{array}{c} \text{L2(m)} \\ \beta \ge 15^{\circ} \end{array}$	$\begin{pmatrix} \alpha < 45^{\circ} & : H \\ 45^{\circ} \le \alpha < 60^{\circ} & : 1.5H \\ 60^{\circ} \le & : 2.0H \end{pmatrix}$
条 地表面勾配		設	離	上	L' (m)	$\begin{array}{ c c c c c c c c c c c c c c c c c c c$
β(°)		定		端		$ \begin{array}{ccc} 45^{\circ} & \leq & \alpha < 60^{\circ} & : 0.6H \\ 60^{\circ} & \leq & : H \end{array} $
	被災した擁壁・のり面	と宅	地	• 建	物等の位置	関係図
特記事項						

調査票記入例

記入例 1 (様式-1) 擁壁被害状況調査·危険度判定票

田 士	≕	調査日	時	〇年 C	月	ОВ	○時調	查番号	A-1	
調査	票		又は降雨災害		地震					
被害発生場所			○○都 (道) 府		00	市和		00	(区)町	
武士老, 缢理老爪女	rtulu —	. <i>ф1</i> 7	00	地区団地				2 番 : 0987-65-4		号
所有者・管理者氏名所有者・管理者の				記入者氏 居住者へ		<u>~ </u>		. 0987-03-4	321	
	TEL: 01.		789		明			在 口老人	、独居住宅	
	<被	災丬	犬 況	図>	·		応急措置 ☑被災無	□済 □未 ☑簡易記録		
1.クラック 2.水平和	多動 3-1.2	不同沈下	3-2.目地の開	き 4.ハラ	₹ 5-1.	傾 斜	5-2.倒 壊	6.擁壁の折	損 7.崩	壊
2/8	-	1 marinamentileti					est to the second secon			5
8.張出し床版付擁壁の支柱の損	傷 9.基礎及	び基礎地盤	の被害 10.排力	k施設の変状		-	建物•道	路との位置関	関係(基礎点	点)
			7000				影響範囲外 (B)	影響範囲(A) 1.0H	影響範囲外(B)
※簡易記録をする場						` (1. 1876=11-23	1.개	上 IE EAL TO	7
ただし、調査箇所が	分かるよう) 判定結5	果を任宅地図	上に記載し	⁄、	無いこ	とか確認でき	くる全景写具	を撮影する	٥٠
	[平	面図]					[断面図]			
被災写真の有無	□無	□有一	→写真番号[]
特記事項										
付配事項										

掘				□L(逆T)型 □もたれ式		重力式					責み擁	睳			増積部と 解壁部と]
擁壁の基礎的条件		□コンクリートヺ	系維壁	□その他						D'B1	FQ / 1715	E			全解壁			m	増設	高		m
の生	擁壁の種類			□場所で		プレキャン									朏]
盛礎	の毎	□練石積縮	壁	口間地石		コンクリー	トブロック	ク	,		始整			- 1	下部				n.t.]
的	鱟			□その他		くずれ	7-1£]		in Hall	다스나카만	hás.		上部高	vI-F	n	n;下音	隔			m
余 件		□空石積縮	辞	□玉石積 □間地石	Ш'	< 9 1 L	仁 傾				が設置が	反付擁 ►件	芒		□その{ □切十		音 口甫	奶奶地	않는 미션	油 口才	祖日	J
			±.	□その他]	擁壁		1011		<u> </u>	<u> </u>	度		(1	:)	
		.t.			,				□影			たは道路	がある()	A) [」影響範			道路がな	(B)			
	_		乾燥								0						0					
	(1)	湧水	湿潤	ılıı ə l alı							0.4						0.2				Llook	
基				出し、流出 有、天端排水準	諸有. 美	新i水())浸添	1IF			0.8						0.4					法計 2+3
i	(2)	排水施設		有、天端は表記							0.4			<u>+</u>			0.2			<u>-</u>	•	9.0
礎		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	水抜孔	無 あっても数	女・寸法	が不通	铛				0.8						0.4					
点			H≦1m								0						0					
		مدمي	1m <h 3m<h< td=""><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>0.2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>0.1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></h<></h 								0.2						0.1					
	্র 	高さ	зш<п 4m<Н								0.4						0.2					
			5m <h< td=""><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>0.8</td><td></td><td></td><td>·····</td><td></td><td></td><td>0.4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></h<>								0.8			·····			0.4					
区分	~			程度				小						þ						大		
ガ	項	旧 クラック		擁壁種類	コンクリ	練積 2	増積 3	2段	張出	空積	コンクリ 25	練積 35	増積 4	2 段 5	張出 7	空積	コンクリ 4	練積 5	増積 6	2 段 7	張出	空積
	_	水平移動			2	2.5	3.5	4	6	6	3.5	4	4.5	5	7	7	5	5.5	6	7	9	9
変状			地の開き	:	3	3.5	4	5	7		4.5	5	6	7	9		6	7	8	9	10	
状形	_					4.5	5	6	8	8		6	7	8	9	9		8	9	10	10	_
形態と変状	_	傾斜・倒壊 擁壁の折損			5 6	5.5 6.5	6	7 8	8	\rightarrow	7	8	8	9	10		8	9	10	10	10	$\overline{}$
と赤	7	崩壊			0	9	9	10	10	8	-	10	10	10	10	9	l °	10	10	10	10	\rightarrow
		張り出し床板							7						9						10	
点		基礎及び基礎		塘				0			1			0			1					
	10 11	77.77.22.2		油刻				3						5 0						7		
			目/程度					小						中						大		
		カニ 、、 カルゴ																				
	1	クラック(幅)						はあるかな時のは				1~20 m クリート系		場合?	2mm∼:	5 mm未		以上 から系	雑謡の		mmDJ	L)
					障な	し(コンク	ツート系	雑壁の	場合2㎜		(コン 満)	クリート系	練壁の				コンク	が一下系		場合5		E)
変	2 (伸	水平移動 縮目地前後の			障な 5mm	しはシケ	ツート系	擁壁の 位があ	場合2m る。	未満 。	(コン 満) 5 mm	クリート系 ı~50 mm	病壁の 味満の	隙間変	位があ	53	(コン)			場合5		Ь
変状の	2 (伸 3	水平移動 縮目地前後の 不同沈下・目	地の開き	ş.	障な 5 mm	し(コンケ 未満の) 未満の	ツート系 第間変わり 目地上	雑壁の	場合2m る。	未満 。	(コン 満) 5 mm	クリート系 i~50 mm ~50 mm	構壁の味満の	隙間変	位があ	53	(コン) 50 mi	カリート系 一以上の	隙間変 D目地の	場合5 ②位が。 O上下の	ある のずわ	収は目
の程	2 (伸 3	水平移動 縮目地前後の	地の開き	ş	障な 5 mm	しはシケ	ツート系 第間変わり 目地上	擁壁の 位があ	場合2m る。	未満 。	(コン 満) 5 mm	クリート系 i~50 mm ~50 mm	病壁の 味満の	隙間変	位があ	53	(コン) 50 mi	カリート系 山以上の 山以上の 開きが	隙間変 D目地の	場合5 ②位が。 O上下の	ある のずわ	
	2 (伸 3 (目 4	水平移動 縮目地前後の 不同沈下・目 地上下・左右 ハラミ	地の開き の開き		障な 5 mm 引き 小規	し(コンク 未満のM 未満の がある。 模のハ	別一系第間変	擁壁の 位があ	場合2mm る。 れ又は	未満。	(コン 満 5mm は に を は に	クリート系 〜50 mm 〜50 mm 地の開	味満の 味満の まがあ	隙間変 目地の っる。 ンクラック	を付かる 上下の か無し	53	50 m 50 m 地の が有 宅地	かり一ト系 山以上の 川場きが いる。 山地盤に	隙間 像 D目地の あり、i テンション	場合5 ご位がる D上下で 骨動、「	あるのずれ転倒のか有り	収は目
の程	2 (伸 3 (目 4 (テ)	水平移動 縮目地前後の 不同沈下・目 地上下・左右 ハラミ ンションクラック・	地の開き の開き		障な 5 mm 5 mm 開き 小規 個抜	し(コンケ 未満のがある。 模のハ け落ち	リート系 環間変 目地上 ラミ及 る)	搬達のがあった。 でいずでです	場合2mm る。 れ又は 州積石が	末満。 目地の ぶ1~2	(コン 満 5 mm は 取 円捌	クリート系 ~50 mm ~50 mm 地の開 地の開	味識の 味満の まがあ テンショ	隙間変 目地の る。 ンクラック	ど位があ 上下の ケ無し	がな	50 m 50 m 地の が有 宅地 円加	が - ト系 - 以上の 開きが にる。 - 地盤に はべり	パ間変の目地のあり、注	場合5 2位がる D上下で 骨動、「 /クラック れ有り	あるのずれ転倒のか有り	又は目のおそれ
の程度大・	2 (伸 3 (目 4 (テ)	水平移動 縮目地前後の 不同沈下・目 地上下・左右 ハラミ	地の開き の開き		障な 5 mm 開き 小規 個抜 操壁	し(コンケ 未満のがある。 様のハ がある。 がある。	リート系 類間変わり 同地上 ラミ及 地盤に	擁 達 のがあ :下のず	場合2mm る。 れ又は	未満。	(コン 満) 5 mm は を出り 雑り	クリート系 ~50 == 一 ~50 == 一 1地の開 地盤に が 前面 を か 手 を が 前面 を か 手 を か 手 を か また か	味満の 味満の まがあ	隙間変 目地の る。 ンクラック れ無し 対し垂	上下のケーク無し	がれ又 ゴン	(コン/ 50 m 50 m 地の が有 宅地 円 腕 瀬	が - ト系 - 以上の 開きが にる。 - 地盤に はべり	隙間変 の目地のあり、i テンションのおそこ・倒壊	場合5 2位がる D上下で 骨動、「 /クラック れ有り	あるのずれ転倒のか有り	収は目
の程度 大・中・	2 (伸 3 (目 4 (デ) 5	水平移動 「縮目地前後の 不同沈下・目 地上下・左右 ハラミ ンションクラック・ 傾斜・倒壊	地の開き の開き		ります。	し(コング 未満のがある。 模のハち が複整の	リート系 関間変 目地上 ラミ及 地盤ご り場合:	擦壁のがあったのずでは が中域に 対し垂50	場合2mm る。 れ又は が積石が 直以下。	末満。 目地の ぶ1~2 (コンクリ の傾斜)	(コン 5 mm 5 mm を	クリート系 ~50 mm ~50 mm 地の開 地盤に すべり かず面面 ト系練	味識の 味満の まがあ でテンショ のおそ 地盤に 達の場	隙間変 目地の る。 ンクラック れ無し 対し垂 計:天端	上下の ク無し 値以上端50 mm	5る ずれ又 。 (コン 以上の	50 m 50 m が有 地の が有 地の が有 地の で で で い	が上の にはなり が前傾いるもの	隙間変 の目地の あり、注 テンション のおそ ・倒壊	場合5 D上下で でクラッパ カ有り してそ	ある のずれ 転倒の か有り の機能	以は目りおそれ
の程度 大・中・小	2 (伸 3 (目 4 (デ) 5	水平移動 「縮目地前後の 不同沈下・目 地上下・左右 ハラミ ンションクラック・ 傾斜・倒壊 雑壁の折損	地の開き	坡计	障な 5 mm 5 開き 小規 (個族) (神経) クラッ	し(コング 未満のがある。 模のハち が複整の	リート系 関間変 目地上 ラミ及 地盤ご り場合:	擦壁のがあったのず で中族が対し垂	場合2mm る。 れ又は が積石が 直以下。	末満。 目地の ぶ1~2 (コンクリ の傾斜)	(コン満 5 mm kg) (銀 クラ) (銀 クラ)	クリート系一一〜50 mm 〜50 mm 一一〜50 mm 一一〜50 mm 一一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	隙間変 目地の る。 ンクラック れ無し 対し垂 かに角	上下の ケ無し 値以上	がれては、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	(コン/ 50 ml 50 ml 地が有地 解壁 て 一見	カリート系 叫以上の 開きが はなべり傾い いして大	パ間変 の目地のあり、i テンションのおそ ・倒壊 である	場合5 で回がる り上下で 1クラック れ有り してそ	あるのずれ転倒のか有りの機能もの。	以は目かおそれ
の程度 大・中・小の概	2 (伸 3 (目 4 (デ) 5 6 横は	水平移動 「縮目地前後の 不同沈下・目 地上下・左右 ハラミ ンションクラック・ 傾斜・倒壊 嫌壁の折損 横・ななめひび らんでいるが	田地の開き の開き) ・ずれ・中 われから 曲線的で	・抜け おきるもの。 おなく、クラック	障な 5 mm 5 開 小個抜	しいか 表満のがある。 株満ののち がある。 からを境 からを境 からを境	リト系 関間変 目地上 ラミ及 地盤ご にわず	擦壁のがあったのずでは、 び中坂は 対に乗りであるかに角	場合2mm る。 れ又は が積石な 直以下。 度をな	未満。 目地の が1~2 (コンクリ) の傾斜 してい	(コ) 5	クリート系 〜50 mm 〜50 mm 〜50 mm 〜50 mm 小が系統 ・10 を持ている。	は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	隙間変目地のことが、大利は、大利は、大利は、大利は、大利は、大利は、大利は、大利は、大利は、大利は	上下の ク無し 値以上 臓ちの 場合	がれてはいいますが、これではいいますが、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは	(コン/ 50 m	が上の 以上の はず前も て 性の 人 に なる。	隙間変の目地のあり、iテンション・・・の場合がは、1 m	場合5	あるのずれ転倒のか有りの機能	以は目りおそれ
の程度 大・中・小の概	2(伸3(目4(デ)566横はを	水平移動 「縮目地前後の 不同沈下・目 地上下・左右 ハラミ ンションクラック・ 傾斜・倒壊 嫌壁の折損 横・ななめひび らんでいるが 境に鈍角に折	田地の開き の開き) ・ずれ・中 われから 曲線的で	・抜け おきるもの。 おなく、クラック	障な 5 mm 5 mm 5 mm 7 が 8 が 9 で 1	しいかれた。大満の水水がある。ハち面がりが水がある。ハウを面がりでは、イン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン	ツート系 類間変 同地上 ラミ及 地盤にこわず にわず	嫌壁のがあったのずび中坂は対よ端50かに角ったのある。)	場合2mm る。 れ又は が積石が 直以下。 度をな ラックを	未満。 目地の が1~2 (コンクリ) の傾斜 してい	口満 5 は 宅田焼り嬢かり見を	クリート系 ~50 mm ~50 mm 十50 mm 川地の開 地域で前面を が不りたけていた。 が表していた。 ないには、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これ	味識の 味満の ただがあ たたいかまそ にがあり いいがり いいがり	隙間変目地のシカラックを表記を対して、系ができる。	上下のケーク無し 度をなり かっぱい はの 場合 あっこう	がれてはいいますが、これではいいますが、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは	ロング 50 mm 50 mの有地 が宅地が で 一トでり後	が上の 以上の 以上が はす前もの 大を との との との との との との との との との との	パ間変 の目地のあり、i テンション・ のおそ・ であるかは、1 m	場合5万分がいたでは、アクラックをいっている。	あるのずれ転倒のか有りの機能	収は目 かおそれ を失っ (コンク) 前傾し
の程度 大・中・小の	2 (俳 3 (目4 (デ) 56 (横はを 7	水平移動 「縮目地前後の 不同沈下・目 地上下・左右 ハラミ ンションクラック・ 傾斜・倒壊 嫌壁の折損 黄・ななめひび らんでいるが 境に鈍角に折 崩壊	田地の開き の開き) ・ずれ・中 われから 曲線的で れている)	・抜け 起きるもの。 なく、 クラック	障な 5 mm 5 別規 が 中間	しにシクトはある。木満のなり、水道のなり、水道のなり、水道をです。からいたが、水道をです。	リート系 類間変 目地上 ラる) 地盤で にわず した上が	搬達のがあった。 で対域が対策がに角からる。) である。)では	場合2㎜る。 れ又は が積石が 直以下。 度をな ラックを いる。	未満。 目地の が1~2 (コンクリ) の傾斜 してい	(コン満) 5 mm は 名別 が は 名別 が は 名別 が は と り 見 を よ は は か は た り 見 を よ な は な は か は た り 見 を よ な は な は か は た か は た か は た か は た か は た か は た か は た か は た か は た か は た か は た か は た か は た か は た か は た か は か は	クリート系 ~50 mm ~50 mm 川地の併 はずず前離 ・クをけていた。 が表していた。 がある。前方列	味識の 味満の ただがあ にかおり にがあり にがあり にがあり にがあり にがあり にがれる。	隙間婆 目地の ンクラッパし垂対 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	上下の ク無し ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	がる ずれ又 以上の してお リートが ウラック	ロンパラ	が上の 以上の 以上が に対対がるして を対して をがし をがして をがし をがして をがして をがして をがして をがして をがして をがして をがして をがして をがして をがし をがして をがして をがして をがして をがして をがし をがし をがし をがし をがし をがし を	隙間変 の目地のあり、i テンション・ のおを ・ であるう は、1 m いる。) してい	場合5万分がいたでは、アクラックをいっている。	あるのずれ転倒のか有りの機能	収は目 かおそれ を失っ (コンク) 前傾し
の程度 大・中・小の概要説	2(俳3(日4(デ566横はを78	水平移動 「縮目地前後の 不同沈下・目 地上下・左右 ハラミ ンションクラック・ 傾斜・倒壊 嫌壁の折損 横・ななめひび らんでいるが 境に鈍角に折 崩壊 張り出し床板	出地の開き の開き) ずれ・中 われから はおいている)	表げ 起きるもの。 なく、クラック の支柱の損傷	障な 5 mm 5 別規 が 中間	しにシクトはある。木満のなり、水道のなり、水道のなり、水道をです。からいたが、水道をです。	リート系 類間変 目地上 ラる) 地盤で にわず した上が	嫌壁のがあったのずび中坂は対よ端50かに角ったのある。)	場合2㎜る。 れ又は が積石が 直以下。 度をな ラックを いる。	未満。 目地の が1~2 (コンクリ) の傾斜 してい	(ロン満) 5 回に 宅間が 2 年間 が 2 年間 できる は 2 年間 できる	クリート系 〜50 mm 〜50 mm 一50 mm 川地の併 はずず前離 ・クをけていた。 が表していた。 がまる。前方現	味識の 味満の ただがあ たたいかまそ にがあり いいかり いいに傾斜	隙間婆 目地の ンクラッパし垂対 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	上下の ク無し ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	がる ずれ又 以上の してお リートが ウラック	ロンパラ	が上の 以上の 以上が はす前もの 大を との との との との との との との との との との	隙間変 の目地のあり、i テンション・ のおを ・ であるう は、1 m いる。) してい	場合5万分がいたでは、アクラックをいっている。	あるのずれ転倒のか有りの機能	収は目 かおそれ を失っ (コンク) 前傾し
の程度 大・中・小の概要説	2 (伸3 (目4 (デ)56 (横はを 789	水平移動 「縮目地前後の 不同沈下・目 地上下・左右 ハラミ ンションクラック・ 傾斜・倒壊 嫌壁の折損 養・ななめひび らんでいるが 境にあれているが 境に動りに折 崩壊 張り出し床板	地の開きの開きかけれているのは、	表げ 起きるもの。 なく、クラック の支柱の損傷	障な 5 mm 5 mm 5 mm 方 開 ル 個 擬 を 系 クラッ る。 (コンか 中 支 大 規	しロンク 村満の 本満の ない 大満の で 大満の で 大満の で 大満の ない 大満の ない 大き で 大き で 大き で で かい に 近い かい で ない で かい で かい で かい で かい で かい で かい	ツート系 顕間変 目地上 及 こうる) 地場合 に対解せないが、 下やケラが、 下やケラ	嫌壁のがあった。 ではないでは、対対では、かいに、かいに、かいに、かいに、かいに、かいに、かいに、かいに、かいに、かいに	場合2mm る。 れ又は	未満。 ヨ地の ぶ1~2 (ロンク)(解) してい 寛にわ	(コン満) 5 回回 5	クリート系 ~50 mm ~50 mm ~50 mm	は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	関間変 目地の シクラック しゅう こう かく 系している かく 系している がく 系しているがく かく まんしゃくがく かんしゃく しんしゃく しんしゃく しんしゃく しんしゃく しんしゃく しんしゃく しんしゃく しんしゃく しんしゃ しんしゃ	上下の ク無し 値以上 値以上 し をないか ある。) る。) いる。	がしておが見	50 == 50 ==	別ト系 以上の 明はい はい はい はい はい はい はい はい はい はい	隙間をあり、i たのようには、なるのでは、なるのでは、なるのでは、なるのでは、なるのでは、なるのでは、なるのでは、なるのでは、なるのでは、なるのでは、ないないには、ないないには、ないないには、ないないには、ないないには、ないないには、ないないには、ないないないには、ないないないには、ないないないには、ないないないには、ないないないには、ないないないには、ないないないないには、ないないないないないには、ないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	場合5	あるのずれた例のの機能はのの。	に又は目 りおそれ を失っ (コンクリ 前傾し 数壊があ
の程度 大・中・小の概要説	2 (伸3 (目4 (デ)56 (横はを 789	水平移動 「縮目地前後の 不同沈下・目 地上下・左右 ハラミ ンションクラック・ 傾斜・倒壊 嫌壁の折損 横・ななめひび らんでいるが 境に鈍角に折 崩壊 張り出し床板	地の開きの開きかけれているのは、	表げ 起きるもの。 なく、クラック の支柱の損傷	障な 5 mm 5 別	しロング 村満の 本が 横げが 瀬 ク ツーに辺り で で 次 で 水 横げが 瀬 ク ツーに辺りで な 沈 本満	ツート系 顕間変 目・ ラる) 地場 に対解したが 下にですれ 下にですれ	があっている。 があっている。 がは、垂がいた。 がし。 がいた。 がし。 がし。 がし。 がし。 がし。 がし。 がし。 がし。 がし。 がし。 がし。 がし。	場合2mmる。 れ又は が積石が 直以下。 声ックを うックを いる。	未満。 目地の 「いか解】 になわ こ。 こ。 こ。 こ。 こ。 こ。 こ。 こ。 こ。 こ。	(コン満) 5 mm 5 mm 5 mm 4 円別 からいこと なり、	クリート系 ~50 mm	は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	関間変 目地の シクラック しゅう こう かく 系している かく 系している がく 系しているがく かく まんしゃくがく かんしゃく しんしゃく しんしゃく しんしゃく しんしゃく しんしゃく しんしゃく しんしゃく しんしゃく しんしゃ しんしゃ	上下の ク無し 値以上 値以上 し をないか ある。) る。) いる。	がしておが見	50 == 50 ==	別ト系 以上の 明はは は は は は は は は は は は は は	隙間をあり、ションションをである合い。である合いして破壊。まり、い	場合5	あるのずれた例のの機能はのの。	収は目 かおそれ を失っ (コンク) 前傾し
の程度 大・中・小の概要説	2 (伸3 (目4 (デ)56 (横はを 789	水平移動 「縮目地前後の 不同沈下・巨 田地上下・左右 ハラミ ンションクラック・ 傾斜・倒壊 嫌壁の折損 青・ななめひび らんでいるが 境に会んでいるが 境に会んでいるが 境に会して 原環 張り出し床柄 排水施設の 排水施設の	地の開きの開き) ずれ・中 かれからでれている。 を付雑壁の を要状	抜け 起きるもの。 なく、クラック D支柱の損傷	障な 5 mm 5 別	しロング 村満の 本が 横げか 糖・ケーツに辺に 横げが 糖・ケーツに辺に 横げが はい 一に辺に でな は 一に辺に でな は 本が 一に ひい で は 本が 一に ひい で は 大き 一 で は かい で は 大き で かい	ツート系 類間で 目・ ラる)地場 に 対しらが、下に 解して が、下に 解して が、下に 解して が、下に 解して が、下に 解して が、下に 解して が、下に 解して が、下に 解して が、下に 解して が、下に 解して が、下に 解して が、下に が に が に が に が に が に が に が に が	嫌壁のがあった。 ではないでは、対対では、かいに、かいに、かいに、かいに、かいに、かいに、かいに、かいに、かいに、かいに	場合2㎜る。 れ又は が積石が良をな ラックを いる。 にじがある。	未満。 目地の 「いか解】 になわ こ。 こ。 こ。 こ。 こ。 こ。 こ。 こ。 こ。 こ。	(コン満) 5 mm 5 mm 5 mm 4 円別 からいこと なり、	クリート系 ~50 mm ~50 mm ~50 mm	は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	関間変 目地の シクラック しゅう こう かく 系している かく 系している がく 系しているがく かく まんしゃくがく かんしゃく しんしゃく しんしゃく しんしゃく しんしゃく しんしゃく しんしゃく しんしゃく しんしゃく しんしゃ しんしゃ	上下の ク無し 値以上 値以上 し をないか ある。) る。) いる。	がしておが見	50 == 50 ==	別ト系 以上の 明はい はい はい はい はい はい はい はい はい はい	隙間をあり、ションションをである合い。である合いして破壊。まり、い	場合5	あるのずれた例のの機能はのの。	に又は目 りおそれ を失っ (コンクリ 前傾し 数壊があ
の程度 大・中・小の概要説	2 (伸3) 3 (目4) 5 6 (横はを) 7 8 9 10	水平移動 「縮目地前後の 不同沈下・目 地上下・左右 ハラミ ンションクラック・ 傾斜・倒壊 嫌壁の折損 養・ななめひび らんでいるが 境に鈍角に折 崩壊 張り出し床板 基礎及び基礎 排水施設の	地の開きの開き) ずれ・中 かれからでれている。 を付雑壁の を要状	抜け 起きるもの。 なく、クラック D支柱の損傷	障な 5 mm 5 別	しロング 村満の 本が 横げか 糖・ケーツに辺に 横げが 糖・ケーツに辺に 横げが はい 一に辺に でな は 一に辺に でな は 本が 一に ひい で は 本が 一に ひい で は 大き 一 で は かい で は 大き で かい	ツート系 類間 世上 一ラる) 地場 に対象したが、下に舗装が出 ではいが、下に舗装が出	があっていた。 があっていた。 がある。 がある。 かいない。 がいない。 がいない。 がいない。 がいない。 がいない。 がいない。 でいる。 でい。 でいる。 でい。 でい。 でいる。 でいる。 でい。 でい。 でい。 でい。 でい。 でいる。 でい。 でい。 でい。 でい	場合2㎜る。 れ又は が積石が良をな ラックを いる。 にじがある。	未満。 目地の 「1~2 (ロング)幹 してい 竟にわ る。 又れる。	(コン満) 5 mm 5 mm 5 mm 4 円別 からいこと なり、	クリート系 ~50 mm	は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	関間を 目地の ンクラック 無し五対 ・	上下の 対無し 対点 対象の場合。 からる。 からない は目地	が見いたののである。	50 == 50 ==	別ト系 以上の 明はは は は は は は は は は は は は は	隙間を の の の の の の の の の の の の の	場合5	あるのずれた例のの機能はのの。	に又は目 りおそれ を失っ (コンクリ 前傾し 数壊があ
の程度 大・中・小の概要説	2 (伸3) 3 (目4) 5 6 (横はを) 7 8 9 10	水平移動 縮目地前後の 不同沈下・目 地上下・左右 ハラミ ンションクラック・ 傾斜・倒壊 嫌壁の折損 積・ななめひが 境によれているが 境によれているが 境によれているが 境によれているが 境によれているが 境によれているが 境によれているが 境によれているが 境によれているが りましたが りまたが りましたが りまたが りまたが りまたが りまたが りまたが りまたが りまたが りま	地の開きの開き) では、中 では、中 では、でいる) では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	抜け 起きるもの。 なく、クラック D支柱の損傷	障な 5 mm 5 別	しロング 株満の水 横水が 横げが 糖・ケーツに辺に 横球・衛の かいに辺いて でなれる いこのいび なれ 海に 水 は 一直 いい いい は 大 は 一直 いい いい は は いい は いい は いい は いい は いい は	ツート系 類間 世上 一ラる) 地場 に対象したが、下に舗装が出 ではいが、下に舗装が出	があっていた。 があっていた。 がある。 がある。 かいない。 がいない。 がいない。 がいない。 がいない。 がいない。 がいない。 でいる。 でい。 でいる。 でい。 でい。 でいる。 でいる。 でい。 でい。 でい。 でい。 でい。 でいる。 でい。 でい。 でい。 でい	場合2㎜る。 れ又は ガ積石が 良をな ラックを いる。 こじびある。 かが見らる。	未満。 目地の 「1~2 (ロング)幹 してい 竟にわ る。 又れる。	(ロ)満 5 間 を	クリート系 ~50 mm	は、 は	関間を かく	上下の 対無し 対点 対象の場合。 からる。 からない は目地	らる ずれ又 はいして おがらの 度の点	(コン) 50 mm 50 mの 6 mm 7	別・トラー以上の開る。地域があるして解し、近果の関係を対して、大学の関係の一大学の関係の一人の関係の一人の対し、大学の関係の一般の対し、大学の関係を対して、大学の関係を対して、大学の関係を対して、大学の関係を対して、大学の関係を対して、大学の関係を対して、大学の関係を対して、大学の関係を対して、大学の関係を対して、大学の関係を対して、大学の関係を対して、大学の関係を対して、大学の関係を対して、大学の関係を対して、大学の対し、大学のは、大学の対し、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは	隙間を の の の の の の の の の の の の の	場合5	あるのずれた例のの機能はのの。	に又は目 りおそれ を失っ (コンクリ 前傾し 数壊があ
の程度 大・中・小の概要説	2 (俳 3 (目 4 (デ) 5 6 (横はを 7 8 9 10	水平移動 縮目地前後の 不同沈下・目 地上下・左右 ハラミ ンションクラック・ 傾斜・倒壊 捷・ななめひが 境に鈍角に折 崩壊 張り出し床板 排水が設つが 練壁背面の 被害の 被害の	地の開きの開きの開きが ずれ・中 われからでいるの 対対機能のを 変状 水道管等	- 抜け 起きるもの。 なく、クラック D支柱の損傷 と書	障な 5 mm 5 別	しロング 株満の水 横水が 横げが 糖・ケーツに辺に 横球・衛の かいに辺いて でなれる いこのいび なれ 海に 水 は 一直 いい いい は 大 は 一直 いい いい は は いい は いい は いい は いい は いい は	ツート系 類間 世上 ラる) 地場 に対象したが、下に舗装が出 ではいが、下に舗装が出	があっず が 対天 か 場合 かんだし + しゅう かん はんし + しゅう かん はん がん はん かん にんし + しゅう かん にんし ・ しゅう しゅう かん にんし ・ しゅう しゅう しゅう しゅう いんし ・ しゅう	場合2mm る。 れ又は が積石が下。 でなった。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。	未満。 目地の 「1~2 (ロング)幹 してい 竟にわ る。 又れる。	(ロ) 満	り ~ 50 回 回開 はりが ト ● ク ク り ~ 50 回 回開 はりが ト ● ク も の と の で か が す か が す か が す か が す な で か が す な で か が す な で か が す な で も で か か が す な で と か か が す な で と か か か す か す か か す か す か す か す か す か す	は、大きないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	関間を 目もる。 ンクセン 対対 : か、系しいいが マックス ☆ 点 の に は か に か に か に か に か に か に か に か に か に	上下のウ無し 連端の場合のである。) は目地 変素(防災	らる ずれ又 ことの こと はいして おがり ない ことの こと と と と と と と と と と と と と と と と と	1 50 = 50 地が宅円擁て 一トてり機支 水能が 数 題	別・トラー以上の開る。地域があるして解し、近果の関係を対して、大学の関係の一大学の関係の一人の関係の一人の対し、大学の関係の一般の対し、大学の関係を対して、大学の関係を対して、大学の関係を対して、大学の関係を対して、大学の関係を対して、大学の関係を対して、大学の関係を対して、大学の関係を対して、大学の関係を対して、大学の関係を対して、大学の関係を対して、大学の関係を対して、大学の関係を対して、大学の関係を対して、大学の対し、大学のは、大学の対し、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは	隙間を の目的り、シジモ・ で場はいるしい。 で場はいる。 で場はいる。 ではない。 ではない。	場合5	あるのずれ転倒のの機能をもの。とも境に耐めている。	に又は目 りおそれ を失っ (コンクリ 前傾し 数壊があ
の程度 大・中・小の概要説明	2 (伸 3 (目 4 (デ 5 6 (横はを 7 8 9 10 11	水平移動 縮目地前後の 不同沈下・目 地上下・左右 ハラミ ンションクラック・ 傾斜・倒壊 嫌壁の折損 積・ななめひが 境によれているが 境によれているが 境によれているが 境によれているが 境によれているが 境によれているが 境によれているが 境によれているが 境によれているが りましたが りまたが りましたが りまたが りまたが りまたが りまたが りまたが りまたが りまたが りま	地の開きの開きの開きが で開きがいる。 がおいている。 がはないを がはないを がいたいる。 がは、 がは、 がは、 がは、 がいた。 がいた。 がいた。 がいた。 がいた。 がいた。 がいた。 がいた。	- 抜け) 起きるもの。 なく、クラック D支柱の損傷 建	障な 5 mm 5 別	しロング 株満の水 横水が 横げが 糖・ケーツに辺に 横球・衛の かいに辺いて でなれる いこのいび なれ 海に 水 は 一直 いい いい は 大 は 一直 いい いい は は いい は いい は いい は いい は いい は	ツート系 類間 世上 ラる) 地場 に対象したが、下に舗装が出 ではいが、下に舗装が出	があっず が 対天 か 場合 かんだし + しゅう かん はんし + しゅう かん はん がん はん かん にんし + しゅう かん にんし ・ しゅう しゅう かん にんし ・ しゅう しゅう しゅう しゅう いんし ・ しゅう	場合2mm る。 れ又は が積石が下。 でなった。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。	未満。 目地の 「1~2 (ロング)幹 してい 竟にわ る。 又れる。	「口満」 5 間 宅田 搬り (乗り) 見を 基 女 え を 活 大 一 一 小	り	は、 は	関制 目もの。ンクラック無し五対	上下の 対	5る ずれ又	1 50 = 50 地が宅円擁て 一トてり機支 水能が 数 題	別ト系 以上の 開る。 は対すがるして解る。 は果ず のお失り 険し のよう。 は、 のよう。 は、 のよう。 のまる。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の	隙間を の目的り、シジモ・ で場はいるしい。 で場はいる。 で場はいる。 ではない。 ではない。	場合5	あるのずれ転倒のの機能をもの。とも境に耐めている。	い又は目 りおそれ を失っ (コンクリ 前傾し 数壊があ
の程度 大・中・小の概要説明	2 (伸 3 (目 4 (デ 5 6 (横はを 7 8 9 10 11	水平移動 縮目地前後の 不同沈下・目 地上下・左右 ハラミ ンションクラック・ 傾斜・倒壊 振空の折損 後・なでいるが 境に延伸に折り 崩壊 張り出し床板 排水施設の 練壁背面の 被害の 被害の を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	地の開きの開きの開きが で開きがいる。 がおいている。 がはないを がはないを がいたいる。 がは、 がは、 がは、 がは、 がいた。 がいた。 がいた。 がいた。 がいた。 がいた。 がいた。 がいた。	- 抜け) 起きるもの。 なく、クラック D支柱の損傷 建	障な 5 mm 5 別	しロング 株満の水 横水が 横げが 糖・ケーツに辺に 横球・衛の かいに辺いて でなれる いこのいび なれ 海に 水 は 一直 いい いい は 大 は 一直 いい いい は は いい は いい は いい は いい は いい は	ツート系 類間 世上 ラる) 地場 に対象したが、下に舗装が出 ではいが、下に舗装が出	があっず が 対天 か 場合 かんだし + しゅう かん はんし + しゅう かん はん がん はん かん にんし + しゅう かん にんし ・ しゅう しゅう かん にんし ・ しゅう しゅう しゅう しゅう いんし ・ しゅう	場合2mm る。 れ又は が積石が下。 でなった。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。	未満。 目地の 「1~2 (ロング)幹 してい 竟にわ る。 又れる。	「口満」 5 は 宅田が外がり、えば基本え 左浜 中小 中	り	は、味噌のは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	関制 目も。ンクが上して 角を輝いていが フリ ☆ 点 。会 点 。	をかける。 上下の かには は には には には には には には には には に	56 ずれ又 しいかっから で と 当 未 まがか から で に 間 当 満 に 当 が から で の に 間 当 満 に すいかい から で に 間 当 満 に から で から で に 間 当 が から で から で に 間 当 満 に から で から で に 間 当 満 に から で から で に 間 当 が から で から で に 間 当 が から で から で に 間 当 が から で に 間 は から で に に は い に は に は に は に は に は に は に は に は	(コン) = 50 = 50 地が宅円擁て 一トてり機支 水能 数 題 面 数 題 面	別し、 以上の ははいかる しくなる傾をの ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	隙間をした。で場はいし破壊をした。 で場はいし破壊をした。 で場はいしで壊した。 ではいしで壊した。 にはいして壊した。 にはいる。 にはい。 にはいる。 にはい。 にはい。 にはい。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはい。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはい。 にはいる。 にはい。 にはい。 には、 にはい。 にはい。 にはい。 にはい。 にはい。 にはい。 にはい。 にはい。 にはい。 にはい。 には	場合5万分ができます。	あるのずれ転倒のの機能をもの。とも境に耐めている。	い又は目 りおそれ を失っ (コンクリ 前傾し 数壊があ
の程度 大・中・小の概要説明	2 (伸 3 (目 4 (デ 5 6 (横はを 7 8 9 10 11	水平移動 縮目地前後の 不同沈下・目 地上下・左右 ハラミ ンションクラック・ 傾斜・倒壊 機壁の折損 したがでいるが 境にがないるが 崩壊 張り出し床板 基礎及び基礎 排水施設の 被害の場合は基 被害の場合は基	地の開きの開きの開きの開きの開きの開きの開きの開きの開きの開きの開きの開きの開きの	地が 起きるもの。 なく、クラック の支柱の損傷 と害	障な 5 mm 5 加速	しては、大が横げが横りをいた辺にで横げ背し基本が横げが横りをいた辺にで横げ横し基本の本面壁の境が飛りがが水浦に大陸		左の 対天 か 場。 か 欠 か 欠 か 欠 か 欠 か 欠 か 欠 か 欠 か 欠 か 欠 か	場合2mm る。 れ又は が積下。 でなった。 でいる。 でいる。 でいる。 の の の の の の の の の の の の の の の の の の の	未満。 目地の	「口満」 5 間 宅田 搬り (解ケ) り見を 基 女 え 左 湧 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	グリー ~ ~ 一 地 地 は か ト 新 一 か	は、「味噌」では、「味噌」では、「味噌」では、「味噌」では、「味噌」では、「味噌」では、「はいい」では、「はいい」では、「はいい」では、「はいい」では、「はいい」では、「はいい」では、「はいい」では、「はいい」では、「はいい」では、「はいい」では、「はいい」では、「はいい」では、「はいいいい」では、「はいいい」では、「はいいいい」では、「はいいい」では、「はいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいいいい」では、「はいいいいい」では、「はいいいいいいいい」では、「はいいいいい」では、「はいいいいい」では、「はいいいいい」では、「はいいいいい」では、「はいいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいい」では、「はいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいいい」では、「はいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいい	隙間 目る。 ンク無し五対	上下の 上	So July Luly So So So So So So So S	1	別し、以きのはである。し、はなる傾をのの一乳失いのし、防いない、いいのでは、いいでは、いい	隙間 DB か テンジを 使	場合ができます。	あるのずれ転倒のの機能をもの。とも境に耐めている。	い又は目 りおそれ を失っ (コンクリ 前傾し 数壊があ
の程度 大・中・小の概要説明	2 4 5 6 7 8 9 10 11 ※無	水平移動 縮目地前後の 不同沈下・目 地上下・左右 ハラミ ンションクラック・ 傾斜・倒壊 機壁の折損 したがでいるが 境にがないるが 崩壊 張り出し床板 基礎及び基礎 排水施設の 被害の場合は基 被害の場合は基	地の開きかけれいは、対対性の特別では、対対性はないないのであり、対対性を対対が、対対性を対対性を対対が、対対性を対対が、対対性を対対性を対対が、対対性を対対性を対対性を対対性を対対性を対対性を対対性を対対性を対対性を対対性	地が 起きるもの。 なく、クラック の支柱の損傷 と害	障な 5 mm 1 が 1 が 1 が 1 が 1 が 1 が 1 が 1 が 1 が	してング 横げが 横げが 横げが 横げが 横げが 横が かが かい に辺に 横球 が は し 基 に し と し し と と し と し と し と し と し と し と し	川	があっず が 対天 か 場合 かんだし + しゅう かん はんし + しゅう かん はん がん はん かん にんし + しゅう かん にんし ・ しゅう しゅう かん にんし ・ しゅう しゅう しゅう しゅう いんし ・ しゅう	場合2mm る。 れ又は が積石が 直mm 度をな ラックを いる。 にびあるら る。 の	未満。 目地の	「口満」 5 間 宅田 搬り (解ケ) り見を 基 女 え 左 湧 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	グリー ~ ~ 一 地 地 は か ト 新 一 か	は、「味噌」では、「味噌」では、「味噌」では、「味噌」では、「味噌」では、「味噌」では、「はいい」では、「はいい」では、「はいい」では、「はいい」では、「はいい」では、「はいい」では、「はいい」では、「はいい」では、「はいい」では、「はいい」では、「はいい」では、「はいい」では、「はいいいい」では、「はいいい」では、「はいいいい」では、「はいいい」では、「はいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいいいい」では、「はいいいいい」では、「はいいいいいいいい」では、「はいいいいい」では、「はいいいいい」では、「はいいいいい」では、「はいいいいい」では、「はいいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいい」では、「はいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいい」では、「はいいいいい」では、「はいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいい	関制 目 20 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	をからした。 対がは、	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 50 1 50 1 50 1 50 1 50 1 50 1 50 1 50	別し、 以上の ははいかる しくなる傾をの ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	隙間を DDあ デンシモ・ デンシモ・ でりはいして・ はいして・ でりないしで、 でりないしで、 でり、ここで、 でり、ここで、 でり、ここで、 でり、ここで、 でして、	場合5ができます。	あるのずれ転倒のの機能をもの。とも境に耐めている。	い又は目 りおそれ を失っ (コンクリ 前傾し 数壊があ

(様式-1) 擁壁被害状況調查・危険度判定票

(138.14	工 / 17性 三	E 1汉 日	1/八/// 前門]		及刊足	7下					
⊒ ⊞	*	1115	調査日時	F (9年 (月	\bigcirc \Box	○時間	查番号	A-2	
調	査	票	地震名又	は降雨災害	名 00	地震					
	d. UB ⇒<			○都(道)府	県	00	市用	邯	00	区町	村
被害発生	王 場 所			00 (地区団地		1	丁目	2 番	3	号
所有者・管	理者氏名	内山。	二郎		記入者氏	名 判定	· 太一	TEL	: 0987-65-43	321	
所有者・管		携帯			居住者へ			<u></u>			
連絡			012-345-6789			明			在 口老人	、独居住宅	
								広急措置	□済 □未		
	<	<被	災 状	況	図>			□被災無		•	
1.クラック	2.水平和	多動 3-1	.不同沈下 3		4.ハラ	₹ 5-1.	.傾 斜	5-2.倒 壊	6. 擁壁の折打	_損 7.崩	壊
2101	DI:					x /	R		A>	7 72 . 4	, _
I A T		-)				AND THE REAL PROPERTY OF THE P	
8.張出し床版付掘	壁の支柱の損	傷 9.基礎	及び基礎地盤の	被害 10.排水	施設の変状			建物•道	路との位置関	関係(基礎)	点)
F	RT-		A		RT:			影響範囲外(B)	影響範囲(A)	影響範囲外	(B)
	\$								1. OH		
				Market 7					// =		
※簡易記録	をする場	合は、被	災状況図は	省略すること	とができる	0			1. 7H		
ただし、調	査箇所が	分かるよ	う判定結果	を住宅地図」	上に記載し	、被害不	が無いこ	とが確認でき	きる全景写真	を撮影する	る。
IN. REW	在 除	のなめ、通行止め				増し積	3. Om	0.5, 0.5, 20 0.5	家屋	:32001	
		[:	平面図]					[断面図]			
被災写真の	の有無[□無	ば 有→2	写真番号 [A-Z (1)	~10]
特記事	項		i擁壁に迫っ i ミの進行に						ミが及ぶ危険 である。	性がある	<i>。</i>

擁壁の	擁	□コンクリートラ	系擁壁	□L逆T)型 □もたれ式 □その他		動式	a1			強	責み搾	き		‡ 	销售部分解整部分	K	3	間分	#ブロン 知石練 n 増設	石	0.5] m
の基礎的条件	擁壁の種類	□練石積糴	壁	□場所打ち □間地石 □その他		プレキャラ コンクリー	<u>い</u> トブロック	7]		分類壁			-)部 (部 (記 (記 (記 (記 (記 (記 (記 (記 (記 (記 (記 (記 (記		n	n;下音	縞] m
条件) 類		1.4	□玉石積		くずれ	石積					好觸	Ė	[コその		* -	d. ⇒⇒1.1.6	n		2012]
11		□空石積縮	堂	□間地石□その他]	雑壁の	D設置的 D公配	件		L		· 盛士 度 了		然知题 (1	<u> </u>	也四个	<u>明</u>)	
		ļ.							□影		建物主		がある(A	(<u>)</u>	」影響範	囲に建物		道路が	cv (B)			
		e z 1.	乾燥									······					0					
		湧水	湿潤	出し、流出							0.4						0.2				基礎	부를수
基				15、7/1111 有、天端排水清	有、表	面水の	浸透阻	lık.			<u>(0</u>)					0			-	1+2	
礎	2	排水施設		有、天端は表面							0.4						0.2					_
			水抜孔 H≤lm	無 あっても巻	女・寸法	が不適	当				0.8						0.4			4	0.4	
点			п≦ш lm <h< td=""><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>0.2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>0.1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>_ </td></h<>								0.2						0.1					_
	3i	高さ	3m <h< td=""><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>0.6</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>0.2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>:</td></h<>								0.6						0.2					:
			4m <h< td=""><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>0.3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></h<>														0.3					
IZ,			5m <h< td=""><td>程度</td><td></td><td></td><td>,</td><td>小 小</td><td></td><td></td><td>0.8</td><td></td><td>E</td><td>þ</td><td></td><td></td><td>0.4</td><td></td><td>-</td><td>t l</td><td></td><td></td></h<>	程度			,	小 小			0.8		E	þ			0.4		-	t l		
区分	項			擁壁種類	コンクリ	練積		2段	張出	空積	コンクリ	練積	増積	2段	張出	空積	コンクリ	練積	増積	2段	張出	空積
		クラック 水平移動			1 2	2.5	3.5	4	5 6	6	25 35	3.5 4	4 4.5	5 5	7	7	5	5 5,5	6	7	9	9
変		不同沈下・目	地の開き	ŕ	3	3.5	4	5	7		4.5	5	6	7	9		6	7	8	9	10	3
変状形		ハラミ				4.5	(5)	6	8	8		6	7	8	9	9		8	9	10	10	10
形態と変状		傾斜・剛懐			5 6	5.5 6.5	7	7 8	8		7	(8)	9	9	10		8	9	10	10	10	
と恋	_	擁壁の折損 崩壊			0	9	9	10	10	8	<u></u>	8	10	10	10	9	<u> </u>	10	10	10	10	10
状		張り出し床板が							7						9						10	
点	9	基礎及び基礎排水施設の		烤				3					1	$\frac{0}{5}$						7		
		がいして 雑壁背面の		破裂				0					1									
	1 .		目/程度 >		9 mm	上述の	クラックは	小なるが	- HMA-L	Lot	Omn	20 m		中			20 ma	-		大	_	
	1 (グラック幅	ر -		障な	し(コンク	リート系	雑壁の地	場合2㎜			ı~20 m クリート系		場合 2	2mm∼5	5 皿未	(12)		擁壁の			
変状	伸	水平移動縮目地前後の											未満の						隙間変			⇒).≵.⊟
0)		不同沈下・目			5mm未満の隙間変位がある。 5mm未満の目地上下のずれ					日地の			だ両の		上M	ずれ又	地の	開きが	の目地 <i>の</i> あり、?			
程		地上下・左右	の開き)	•	開きがある。												が有	る。				
程度	40	ハラミ			少规	臭のハ	ラミ及び	び中抜い	州積石 加)*1-3)		テンショ				宅地	地盤に	テンション			
程度 大・	4 く (テ:				が規模を	臭のハ ナ <u>まち</u> が前面	ラミ及で る) 地盤に対	対し垂直	 到下。	<u> </u>	門加	はべり が削値	のおそ 地盤に	れ無し 対し垂	直以上		宅地 円弧 擁壁	地盤に はべり か前傾	のおそ!	れ有り		を失っ
度 大・中・	4 (;; 5 (ハラミンジョンクラック・ (傾斜・) 懐			機管	臭のハ は落ちが前面 雑壁の	ラミ及で る) 地盤に対場合: 3	対し垂i 天端50 i	並以下。 ■■未満の	(コンクリ の傾斜)	がクリー	はべり が前値 小系雑	のおそ 地盤に きの場合	れ無し 対し垂 合:天体	直以上 #50 mm	此の	宅地 円弧 擦壁 てい	地盤に はべり 分前傾 るもの	のおそ [・倒壊])。	れ有りしてその	の機能	
度大・中	4 く (テ: 5 く	ハラミンンションクラック・	ずれ・4	坡计	が規模を を対象を を対象を かの表 クラッ る。	臭のハ け落ち が前面 擁壁の	ラミ及で る) 地盤に対 場合: ラ	対し垂証 天端 50 i かに角)	恒以下。 □□未満の 度をな	(コンクリの傾斜)	アがクリークラッり、	が前面小系統の方を境に抜け石	のおそ 地盤に きの場合 こ明らな があり	れ無し 対し垂 対に乗り かに角り 、裏込	直以上 #50 mm 度をな めコンク	以上の してお リートが	宅地 開難 てい 一 見 系	地盤に対が傾めるものして大鍵壁の	のおそ [・倒壊]]。 である の場合/	れ有り してその と判る ラックを	の機能 もの。 を境に	コンクリ
度 大・中・小の概	4(テ) 5 6 横は	ハラミンションカラック・ 傾斜・砂壊 雑壁の折損 i・ななめひび らんでいるが	ずれ・中	・抜け 上きるもの。 なく、 クラック	が を が が が が が が の の の の の の の の の の の の の	臭のハ 土落ちが前面 掬壁の かを境に	ラミ及で る) 地盤に対場合:ラ にわずが	対し垂頭 天端50 1	恒以下。 □□未満の 度をな	(コンクリの傾斜)	円別がクリークラり、見え	すべり が削値 小系を境に 抜け石 る。口	のおそ 地盤に きの場合 こ明らな があり ンクリート	れ無し対し垂合:天端かに角込、系練壁	直以上	以上の してお リートが	宅地が強い一見ない	地盤に対対傾るものして大経壁のる。又	のおそだ。 (・倒壊) である の場合 は、1 m	れ有り してその と判る ラックを mでも	の機能 もの。 を境に	コンクリ
度 大・中・小の概要説	4(デ) 6 横はを	ハラミンショングラック・ 傾斜・ 陳 雑壁の折損 i・ななめひび	ずれ・中	・抜け 上きるもの。 なく、 クラック	が を が が が が が が が が が が が が が が か り う い う い う い う が う が う が う が う が う が う が	臭のハ け落ち が前面 雑壁の クを境に ツート系 に前傾	ラミ及で る) 地盤に対 場合: ラ	対し垂頭 R端 50 m かに角) か場合か る。)	シンド。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(コンクリの傾斜)	円加速がたり、見えば	けべり が前面 小系輝 クを境の 抜け石 る。に ある。に	のおそ 地盤に きの場合 こ明らな があり	れ無し対し垂 対に乗込いに 系が遅いてい	直以上 #50 mm 度をな めロンク の場合 る。)	以上の してお リートが	宅地が壁い一見所い後	地盤にはべりいるものというでは、 はなりではないでは、 とないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 とないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はなでは、 はなでは、 はなでは、 はなでは、 とは、 はなでは、 はなでは、 はなでは、 とは、 とは、 とは、 とは、 とは、 とは、 とは、 とは、 とは、 と	のおそ [・倒壊]]。 である の場合/	と判る	の機能 もの。 を境に	コンクリ
度 大・中・小の概	4 fr 5 6 横はを 7 8	ハラミンションケラック・ 傾斜・砂壊 ・ななめひびらんでいるが 境に鈍角に折。 崩壊 張り出し床粉	ずれ・中かわから曲線的でいる。	・抜け 起きるもの。 なく、クラック D支柱の損傷	が 機能 かる。 (コンク ずか) 中間 支柱	東のハ は本弦な が前面が 擦壁の クを境に で、前面 で、前面 で、前面 で、前面 で、前面 で、前面 で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、	ラミ及でる) 地盤に対場合: ラ にわずが がくっている かくしている かんしている かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんし	対し垂頭 た端50 p かに角) 場合かる。) 骨っている。	直以下。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(コンクリ)の傾斜)してい	円加速がり、見を場です。	はでり が削値 小系線 かを境石 ならに前方 ないがある。	のおそ地盤にこ明られがあり、ングリートに傾斜して滑	れ無し対しまる。系統といってい	ii以下 #50 mil 要をな めコンク る。) る。)	以上の してお リートが	宅地が壁い一片がり機能	地盤にはべりいるものというでは、 はなりではないでは、 とないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 とないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はなでは、 はなでは、 はなでは、 はなでは、 とは、 はなでは、 はなでは、 はなでは、 とは、 とは、 とは、 とは、 とは、 とは、 とは、 とは、 とは、 と	のおそだ。 「・倒壊」 である の場合かは、1 m いる。) こしてい	と判る	の機能 もの。 を境に	コンクリ
度 大・中・小の概要説	4(デ 6 横は 7 8	ハラミンションケラック・ 傾斜・砂壊 ・ななめひびらんでいるが 境に鈍角に折 崩壊 張り出し床粉 基礎及び基礎	ずれ・中 われから 曲線的で れている の 付雑壁の	・抜け 起きるもの。 なく、クラック D支柱の損傷	が 機能 か系 クラッ る。 (コンク ずか) 中間 支柱	東のハ 大変ちが前面が 解壁の クを境に ツート系 にこいび、 葉な沈	ラミ及びる) 地盤に対 場合: ラ にわずい としてい が ひっと アヤクラ	対し垂頭	直以下。 重ま満 度をな ラックを いる。	(コンケリ) の傾斜 してい 境にわる。	門が行うり、えば、強力である。	はずべり が前面 ト系雑 クをはる。は前方 とのコンパ	のおその場合であり、これがあり。これがあり、これがあり、これがあり、これがあり、これがあり、これがあり、これがあり、これがあり、これがあり、これがあり、これがあり、これがあり、これがあり、これがあり、これがあり、これがあり。これがあり、これがあり。これがあり、これがあり。これがあり、これがあり。これがあり、これがあり。これがあり。これがあり。これがあり。これがあり。これがあり。これがあり。これがあり。これがあり。これがあり。これがあり。これがあり。これがあり。これがあり。これがり、これがあり。これがり、これがり、これがり、これがり、これがり、これがり、これがり、これがり、	れ無し垂端が、系していばが	直以上	以上のしており上かかりラック	宅地が壁い一小でり機支柱	地盤にりがるした経路にり傾の大陸と又てた郷	のおそろう。 であるの場合かは、1 m いる。) している。 している。	と判るとうかでも	もの。を境に剪断破	(コンク) 前傾し 壊があ
度 大・中・小の概要説	4(デン 6 横はを 7 8 9 10	ハラミンショングラック・ 傾斜・砂壊 がなめひびらんでいるが 境に鈍角に折り 崩壊 張り出し床粉 排水施設の	ずれ・中 われから はまめている かれている を付雑壁の を と	・抜け 起きるもの。 なく、クラック D支柱の損傷	が が が が が を を を の に な が の は 大 規 に 大 大 場 端 は 大 大 場 に 大 に に 大 に に 大 に に に に に に に に に に に に に	東のハウンスを対象を受け、一人の一人の一人の一人の一人の一人の一人の一人の一人の一人の一人の一人の一人の一	ラミ及びる) 地盤に対している。 これずが に上がず ドマウラ にずましていが でや ですれる できまる かんしん アマガラ に 雑装面 いる これ からした からした からした からした からした からした からした からした	対し垂動 がに角) 場合かる。) 骨っている。 ツクが生 グラック	シリト。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(コンクリア)(ロンクリア)(解) してい 境にわる。 又は	門が行うり、見を基本されて	はずべり が前面 ト系雑 クをはる。は前方 とのコンパ	のおそれのおというでは、これのおり、これのようには、これのようには、これのは、これのは、これのは、これのは、これのは、これのは、これのは、これの	れ無し垂端が、系していばが	直以上	以上のしており上かかりラック	宅門擁で、見済い後機支	地盤にはがいる して雑ピス では 大きな に 大きな に して 大きな に し 果 男 断 れ の 詰	のおそだ。 「・倒壊」 である の場合かは、1 m いる。) こしてい	れ有り してその と判る ラックでも ない。	もの。を境に剪断破	(コンク) 前傾し 壊があ
度 大・中・小の概要説	4(デ 6 横は 7 8	ハラミンショングラック・ 傾斜・砂壊 がはいるが りらんでいるが 覚に純角に折り 崩壊 張り出し床材 排水施設の	ずれ・中 われから はまめている かれている を付雑壁の を と	・抜け 起きるもの。 なく、クラック D支柱の損傷	が が が が が を を を の に な が の は 大 規 に 大 大 場 端 は 大 大 場 に 大 に に 大 に に 大 に に た に に に に に に に に に に に に に	東のハナスをおりが開発を境に、系順かいでは、不順のかいでは、不順のかいでは、不順のかいでは、不順のかいでは、不順のかいでは、不可にない。	ラミ及び 地盤に対 場合: ラ にわずが に上がず 下やウラ に 業装面は が流出	対し垂動 がに角) 場合かっている。) でいる。 ツクが生 アクラック している。	シェルス でいる。 ジングをいる。 ジングをいる。 ジングをいる。 ジングをいる。	(コンクリア)(原語) してい 境にわる。 又は、れる。	門が行うり、見を基本されて	はすべり が前面を いた場合では かった境石 (ロカカ はでする。 がでする。 がでする。 がいる。 がいる。 がいる。 がいる。	のおそれのおというでは、これのおり、これのようには、これのようには、これのは、これのは、これのは、これのは、これのは、これのは、これのは、これの	れ無し垂端といる。系しついはが	直以上	以上の してお リートが クラック 筋が見 からの	宅地が 一トでいる 機支柱 水族が	地盤にはずりかるものというでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	のおそ: [・倒壊] 「である」 「である」 いる。) してい 破壊。 まり、ほ	と判るでもない。	もの。を境に剪断破	(コンク) 前傾し 壊があ
度 大・中・小の概要説	4(デン 6 横はを 7 8 9 10	ハラミンショングラック・ 傾斜・砂壊 がなめひびらんでいるが 境に鈍角に折り 崩壊 張り出し床粉 排水施設の	ずれ・中 われから はまめている かれている を付雑壁の を と	・抜け 起きるもの。 なく、クラック D支柱の損傷	が が が が が を を を の に な が の は 大 規 に 大 大 場 端 は 大 大 場 に 大 に に 大 に に 大 に に た に に に に に に に に に に に に に	東のハウン・カラン・カラン・カラン・カラン・カラン・カラン・カラン・カラン・カラン・カラ	ラミ及び は は は は は は は は は は は は は は は は は は は	対し垂動 およう かに角 からる。 かている。 かく ケラックが 性 パンティン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	シリト。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(コング) の傾斜 してい 境にわる。 又は、	円加速 クリ かり 見を 基 支 え 左 湧	はすべり が前値 いたがではない。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある	のおそではいる。	れ無し五端から、系がしている。	直以上 豊かいから あいました。) このは、) は、日地 は、日地	以上のしておりからかり、	宅地が壁い 見らい後地 水能 数とが	地盤にすが前傾のものとは経路というが傾からものとは経路というでは、大路路というでは、大路路というでは、大路路とは、ためは、大路路とは、大路路とは、大路路とは、大路路は、ちは、大路路とは、大路路路とは、大路路路とは、大路路路とは、大路路路は、大路路路は、大路路路は、大路路路は、大路路路は、大路路路は、大路路路は、大路路路は、大路路路は、大路路路は、大路路は、路路は、	のおそに 「・倒壊」 であるかは、1 m いる。) してい。 まり、ほ	と判るでもない。	もの。を境に剪断破	(コンク) 前傾し 壊があ
度 大・中・小の概要説	4(デン 6 横はを 7 8 9 10	ハラミンショングラック・ 傾斜・砂壊 焼壁の折損 ・ななめひひらんでいるが 寛に鈍角に折 崩壊 張り出し床板 排水施設の 嫌壁背面の	ずれ・中 われから はまめている かれている を付雑壁の を と	・抜け 起きるもの。 なく、クラック D支柱の損傷	が が が が が を を を の に な が の は 大 規 に 大 大 場 端 は 大 大 場 に 大 に に 大 に に 大 に に た に に に に に に に に に に に に に	東のハナスをおりが開発を境に、系順かいでは、不順のかいでは、不順のかいでは、不順のかいでは、不順のかいでは、不順のかいでは、不可にない。	ラミ及び は は は は は は は は は は は は は は は は は は は	対し垂動 がに角) 場合かっている。) でいる。 ツクが生 アクラック している。	シェルス でいる。 ジングをいる。 ジングをいる。 ジングをいる。 ジングをいる。	(コング) の傾斜 してい 境にわる。 又は、	門が一方り、えば歳村で左派外	はずが が有解を が介をける。 がのでいる。 があるにいる。 があるといる。 があるといる。 をおいる。 があるといる。 があるといる。 をおいる。 があると、 があると、 があると、 があると、 があると、 があると、 があると、 があると、 があると、 があると、 がなる。 がな。 がなる。 がな。 がなる。 がな。 がな。 がなる。 がなる。 がなる。 がなる。 がなる。	のおそでは、このおり、このおり、このおり、このからかり、このからかり、このからからいいでしています。	れ無し対し乗送という。系しているがは、ののではは、ののではは、ののではは、ののではは、ののでは、ののでは、のので	重り、一回をなりのよう。 変がののよう。 では、自動をは、自動をは、自動をは、自動をは、自動をは、自動をは、自動をは、自動を	以上のしており一十がクラック 一方が見 からの 度の点	宅地が でい 一見 がい で り後 様 女 は が と が と が 無 が と が ま か と が ま か と が ま か と が ま か と が ま か と が と が と が と が と が と が と が と が と が と	地盤に対すが傾って、大陸の大路のは、大路を入れて、大路の大路のは、大路の大路の大路の大路の大路の大路の大路の大路の大路の大路の大路の大路の大路の大	のおそだ。 であるかはいる。) であるかはいる。) にしてい。 はいる。 対にいる。	れ有りしてそんと判るない。 皮損が	の機能もの。を与境には動物的破場をあり、	(コンク) 前傾し 壊があ
度 大・中・小の概要説明	4(デ) 6 (横はを) 7 8 9 10	ハラミンショングラック・ 傾斜・砂壊 機壁の折損 ・ななめひひらんでいるが ・ 始まの出し床板 排水施設の ・ 排壁 排水施設の ・ 被害の ・ 被害の ・ 被害の	ずれ・中 われから かれかられている の 対解壁の 検 数状 心 に に に に に に に に に に に に に に に に に に	- 抜け 起きるもの。 なく、クラック D支柱の損傷 建	が が が が が を を を の に な が の は 大 規 に 大 大 場 端 は 大 大 場 に 大 に に 大 に に 大 に に た に に に に に に に に に に に に に	東のハウン・カラン・カラン・カラン・カラン・カラン・カラン・カラン・カラン・カラン・カラ	ラミ及び は は は は は は は は は は は は は は は は は は は	対し垂動 およう かに角 からる。 かている。 かく ケラックが 性 パンティン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	シリト。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(コング) の傾斜 してい 境にわる。 又は、	田城川(から) 見を堪蔵 支え 左浜州 無 小	はずべりが有解した。 からない からない からない からない からない からない からない からない	のおそを では では では では では では では では では では	れ無し垂ば 対は、	値以下回 度をないり () 度をないり場合 () といっという はまま はまま はままま はままままままままままままままままままままままま	以上のしておがりからの点間に出	宅地が でい 一見 がい で り後 様 女 は が と が と が 無 が と が ま か と が ま か と が ま か と が ま か と が ま か と が と が と が と が と が と が と が と が と が と	地盤に対すが傾って、大陸の大路のは、大路を入れて、大路の大路のは、大路の大路の大路の大路の大路の大路の大路の大路の大路の大路の大路の大路の大路の大	のおそ: [・倒壊] 「である」 「である」 いる。) してい 破壊。 まり、ほ	れ有りしてそんと判るない。 皮損が	の機能もの。を与境には動物的破場をあり、	(コンク) 前傾し 壊があ
度 大・中・小の概要説明	4(デ) 6 (横はを) 7 8 9 10	ハラミンショングラック・ 傾斜・砂壊 雑壁の折損 ・ななめひひ らんでいるが 寛ご鈍角に折 崩壊 張り出し床材 排水施設の ・ 練壁背面の 被害の 被害の を変われるが が が が が が が が が が が が が が	ずれ・中 われから かれかられている の 対解壁の 検 数状 心 に に に に に に に に に に に に に に に に に に	- 抜け 起きるもの。 なく、クラック D支柱の損傷 建	が が が が が を を を の に な が の は 大 規 に 大 大 場 端 は 大 大 場 に 大 に に 大 に に 大 に に た に に に に に に に に に に に に に	東のハウン・カラン・カラン・カラン・カラン・カラン・カラン・カラン・カラン・カラン・カラ	ラミ及び は は は は は は は は は は は は は は は は は は は	対し郵501 場合かに角がいる。 サイン かいて かい はい かい はい かい はい かい	シリト。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(コング) の傾斜 してい 境にわる。 又は、	田雄川	はずべりが有解した。 からない からない からない からない からない からない からない からない	のおそでは、	れ無し 対 注: みに 裏を纏いていが	直見り間がないからい。 変がないからる。 では、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	以上の して おがり	宅地が で	地盤に対するものは、大陸の大路の側を表現して、大陸の大路のでは、大路の大路のでは、大路の大路のでは、大路の大路のでは、大路の大路のでは、大路の大路のでは、大路の大路のでは、大路の大路のでは、大路の大路の大路の大路の大路の大路の大路の大路の大路の大路の大路の大路の大路の大	のおそだ。 で 倒壊 で ある かはいる。) この場 、1 m に し で ある かままれる。) またいる。 全はいる。) と 間 に し に し に し に し に し に し に し に し に し に	れ有りしてそのと判るとうかがある。	の機能もの。を与境には動物的破場をあり、	(コンク) 前傾し 壊があ
度 大・中・小の概要説明	4(デ) 6 (横はを) 7 8 9 10	ハラミンショングラック・ 傾斜・り壊 機壁の折損 ・ななめひひ らんでいるが 筋鬼 張り出し床材 基礎及び基礎 排水施設の 機管情面の 機管情面の 機管の場合は基礎	ずれ・中 われから でれている) 村雑壁の 地盤の独 変状 ・ 松道管等 ・ 撃状 た を 変状 た を 変状 た 変 、 変 、 変 、 変 、 変 、 変 、 変 、 変 、 変 、 変	地が 起きるもの。 なく、クラック の支柱の損傷 と害	機能系クラッる。ログが間は大天光、破と大大光、ないのでは、大大光、ないのでは、大大光、ないのでは、大大光、ないのでは、大大光、ないのでは、大大光、ないのでは、大大大・大大・大大・大大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大	東のからが開発のからが開発のでは、1000円のでは、100	ラミ及びは場合:フリングを対しら上が、下ですが、下ですが、下ですが、「下ですが、「下です」では、「下です」では、「下です。」「「「「「「「「「」」」「「」」「「」」「「」」「「」」「「」」「「」」「	対し郵501かに角) ゆうかに かいて かいる。) でいる。 ・ アンクが 性 がく かいっして いっと して いっと して いっと して ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	シリト。 ・	はなかり解析していい。	田雄川像 ラりえば 墓 女え 左瀬州 無 小 中	はずが順離した。前へのは、一次は、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では	のおそでは、	れ対 注 い 系しつ は アク ☆ 点 限 付 が 、系しつ は アク ☆ 点 で 付 で 点 限 で か か か か か か か か か か か か か か か か か か	値以下回 をない場合 は 変 紙 点 点 点 立 スピー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	以上の しい しい しい しい しい しい しい しい しい にい にい にい にい にい にい にい にい にい に	を出掘している 機能 対 題 面 行い後継ばい 見らい後継ば 水焼が と 無 は し	地盤にりがるして経過をのの一角失りがし、次には、一般になる。して、大学のでは、まればればればればればればればればればればればればればればればればればればれば	のおそでは、 であるかは、 1 m に で は、 1 m に で は で は に で な こ で か に で か に で か に で か に で か に で か に じ が に で か に じ が に が に が に が に が に が に が に が に が に	れ有りしてそのときません。	の機能もの。を与境には動物的破場をあり、	(コンク) 前傾し 壊があ
度 大・中・小の概要説明	4(デラン 6 横はを 7 8 9 10 11	ハラミンショングラック・ 傾斜・り壊 機壁の折損 ・ななめひひ らんでいるが 筋鬼 張り出し床材 基礎及び基礎 排水施設の 機管情面の 機管情面の 機管の場合は基礎	ずれ・日 われからでる の付練壁の を と 大道管等 に に 大道で で で で 大道で を 大が に で り で り で り で り で り で り で り で り で り で	地が 起きるもの。 なく、クラック の支柱の損傷 と害	が が が が が を を を の に な が の は 大 規 に 大 大 場 端 は 大 大 場 に 大 に に 大 に に 大 に に た に に に に に に に に に に に に に	原がたが前壁の ない ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ラミ及びに対している。 「下によりでは、 「下によりでは、 「下によりでは、 「下によりでは、 」 「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	対し郵501 場合かに角がいる。 サイン かいて かい はい かい はい かい はい かい		はなかり、はないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	田雄川像 ラりえば 墓 女え 左瀬州 無 小 中	はずが順離した。前へのは、一次は、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では	のおそでは、	れ対 :	1 (1 点 3.5 立) 後 (1 点 3.5 立) と (1	以上の して トラック が 見 の に に に に に に に に に に に に に	を円掘せい 見いの後継を担 数 題 面 行 難 数 題 面 行 難、	地盤にりがるして経過をののでは、一般による。して、一般による。して、一般には、一般には、一般には、一般には、一般には、一般には、一般には、一般には	のおそだ。 で 倒壊 で ある かはいる。) この場 、1 m に し で ある かままれる。) またいる。 全はいる。) と 間 に し に し に し に し に し に し に し に し に し に	れ有りてそくとラップでない。 一般を表現して、 はいない。 は、	の機能もの。を与境には動物的破場をあり、	(コンク) 前傾し 壊があ

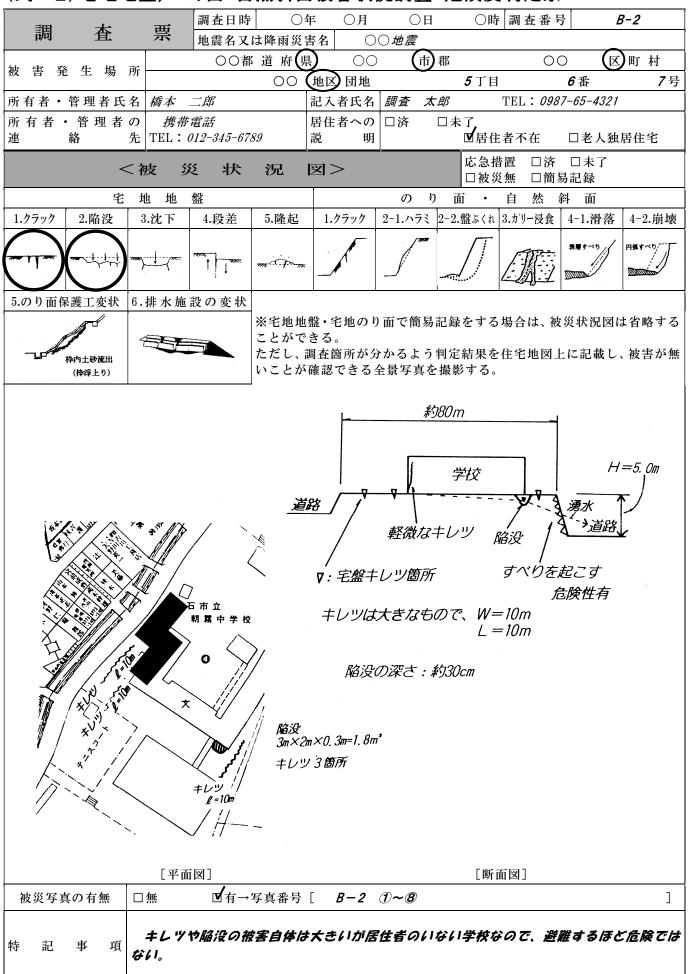
記入例 3 (様式-2) 宅地地盤/のり面・自然斜面被害状況調査・危険度判定票

				調査日時	○ 4	三〇月	ОВ		調査番号	号 <i>E</i>	3-1
調	査		票		は降雨災割	1	○地震		1,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	- 1	
					道 府(県		$\overline{}$	郡	00	O (区)町 村
被害药	色 生 場	所				地区 団地		5 丁目		6番	<i>7</i> 号
所有者•	管理者	氏名	橋本	一郎		記入者氏名	調査太	郎	TEL: 098	7-65-4321	
所有者	• 管理					居住者への	□済	口/未了,			
連	絡	先	$TEL: \epsilon$	012-345-67	89	説明		■居住	者不在	□老人独	居住宅
		< [∤]	波 災	٤ 状	況	図>		応急指 ☑被災	計置 □済	□未了 易記録	
	:	宅力	也 地	盤			のり			斜面	
1.クラック	2.陥没		3.沈下	4.段差	5.隆起	1.クラック	2-1.ハラミ	2-2.盤ぶくれ	3.カリー浸食	4-1.滑落	4-2.崩壊
		+		1	Note that the same			\int		表現すべり	四重すべり
5.のり面化	 呆護工変り	£ 6.	排水施	<u> </u> 設の変状				1			
	A S				※宅地地	盤・宅地のり	面で簡易	記録をする	場合は、被	災状況図 は	は省略する
		4			ことができ		(.). - 	ᄱᄼᆇᄱᆇ	D. es lil. lss	.) • ⇒ + k)	to the 18 for
	枠内土砂流出 (枠浮上り)					周査箇所が分 確認できる。			'任毛地凶」	上に記載し.	、彼害か無
	((+1+12))							,,,,,			
			[平面					[断i	面図]		
被災写到	真の有無		無	□有→	字真番号	[]
特 記	事「	頁									

	のり面・自然斜面の基礎的条件											
地	程	岩	□軟岩 □碓	更岩 □不明	オー	バーハング	□無□有	i				
月巴公 	益	土 砂	□砂質土□礫ឰ	====================================	排刀	k施設	□無□有	す(のり)				
の	り面高		最大高	m(平均高 m)	のり)面保護工	□無□植	生土	□構造物			
(複合	合のり面は排	確壁高含)	(うち擁壁高	m)	무선	公正→ PP	口のり面の)上部	□のり面の中部			
の	り面勾配			度		き配置	□のり面の	下部	□全面			
の	り長さ			m	家屋	屋の有無	上部 口有	「 □無	既 : 下部 □有 □無			
			ł	変 状 形 態	ځ	配点表	· 長					
	変形状態	態のチェッ	ク(複数可)	小			中		大			
宅	1 クラ	ラック(幅)		3 cm未満	1	3~15cm 未》 複数	満又は	3	15cm 以上又は全面	5		
地	2 陥	殳(深さ)		20 cm未満	2	20~50 cm未満 4			50 cm以上	6		
地	3 沈下(沈下量)			10 cm未満	2	10~25 cm未	満	4	25 cm以上	7		
盤	4 段差	差(段差量)		20 cm未満	3	20~50 cm未	満	5	50 cm以上	8		
	5 隆起	記(隆起量)		20 cm未満	7	20~50 cm未	満	8	50 cm以上	9		
	6 湧	水、噴砂		□無 □有→+1点(上	の点数	(に1点加える	5)					
	変形状態	態のチェッ	ク(複数可)	小			中		大			
	1 クラ	ック(幅)		3 cm未満又は単数	1	3~15 cm未 数		2	15 ㎝以上又は全面	3		
	2 ハラ	ミ(隆起量)		10 cm未満	3	10~30 cm未	満	4	30 cm以上	5		
	3 ガリー浸食			クラックなどが誘因 となって雨滴による 浸食が現れはじめた 段階。	6	のり面の表 にないる いるお それ の。	など放置 被害が広	7	洞穴状や滝壺状にガ リーが進展して家屋 の基礎やのり面等の 下側に被害を及ぼす ような状態。	8		
の り	4 滑落	• 崩壊		部分的な表層すべり、又はのり面上部 の小崩壊。	7	表でいます。な状ますの、放放します。な状ますの、でののででのででのです。	れたよる 置すれの はのり 面	8	全面的なすべり崩壊 で、さらに拡大のお それがあるもの、又 はのり面底部を含む 全崩壊。	9		
面・自		面保護工の 生工は除く		例えば、のり枠の間 詰め陥没。又はコン クリート吹付エにわ ずかにテンションク ラックが見られるが 吹付エのずれは認め られない程度。	7	例えば、の 分的ない クラックラック 没・ずれが れる。	。又はコ 吹付工の 部分で陥	8	例えば、のり枠の浮上り破壊。又付工の 上り破壊。又付工の フリートが露出し、 ンクリートで出し付られ している。 といった。 といった。 といった。 といった。 といった。 といった。 といった。 といった。 といった。 といった。 といった。 というという。 というという。 というという。 というという。 というという。 というという。 というという。 というという。 というという。 というという。 というという。 というという。 というというという。 というというという。 というというという。 というというという。 というというというという。 というというというというというという。 というというというというというというというというというというというというというと	9		
然斜面	6 排水	施設の変制	?	天端排水溝にずれ、 欠損がある。又は、天 端背面、舗装面にク ラックが見られる。	3	左に加え、 クラック、 からの湧水	又は目地	5	排水溝が破断沈下す るなど、排水機能が 失われている。	7		
Щ	7 のり	面内の水道管	ぎ 等の破裂	破裂して水が流出して	いる。					8		
	8 湧水	、落石・轅	云石	□無 □有→+1 点(上の	の点数	に1点加える)					
			定値 道を加えた点数 対大点の記載無し	0	点		0 点版 1~3点(当	坊災上 当面は	数と危険度判定☆ 問題無し) 防災上問題無し)			
		危険度半	则定	口大 口中 口小	☑無				き立入。進行していれば避 要避難、立入禁止)	雅)		
	所見記	入者の意見	緊急度	口大 口中 口/	₽	(人命	・財産・交	通の	3 点を判断基準とする。)		
	※無被害の	場合は記載無し	拡大の見込	□有 □無 □判	判断不	可 (備考	:)		

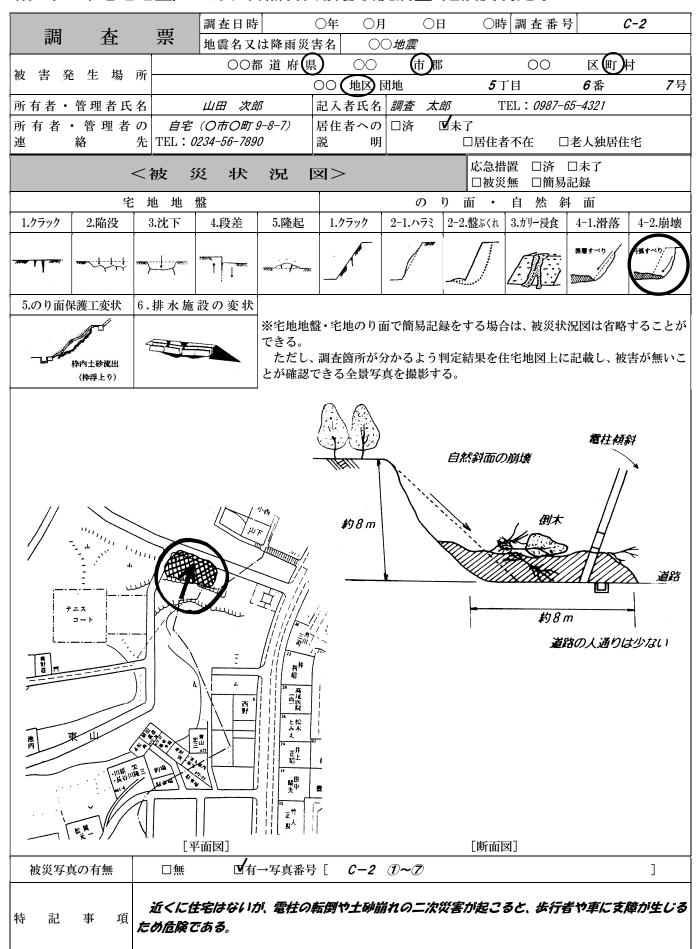
記入例 4

(式-2)宅地地盤/のり面・自然斜面被害状況調査・危険度判定票



	のり面・自然斜面の基礎的条件											
Irls f	ir.	岩	□軟岩 □硝	更岩 ☑不明	オー	バーハング	☑無 □1	ī				
地拉	監	上 砂	□砂質土□礫貿	質土□粘性土₾不明	排ス	k施設	□無 ▼	河(り)	1 (小段排水)			
の	り面高		最大高 <i>5</i>	m(平均高 5 m)	のり)面保護工	□無□□幅	直生土	□構造物			
	合のり面は擁壁で	高含)	(うち擁壁高	5 m)	1-4-11	No m²→ 1000	□のり面の	D上部	□のり面の中部			
の	り面勾配			60 度	一 摊型	達配置	□のり面の)下部	☑全面			
の	り 長さ			5.5 m	家屋	屋の有無		す □無	禁 : 下部 □有 ☑無			
				変 状 形 態	لح	配点表	長					
	変形状態の	チェック	ク(複数可)	小		H2 //// 2	中		大			
宅	1 クラッ	ク(幅)	,	3 cm未満	1	3~15cm 未注 複数	満又は	3	15cm 以上又は全面	5		
地	2 (陥没(沒	ださり		20 cm未満	2	20~50 cm未	満	4	50 cm以上	6		
地	3 沈下()	比下量)		10 cm未満	2	10~25 cm未	満	4	25 cm以上	7		
盤	4 段差(段	设差量)		20 cm未満	3	20~50 cm未	満	5	50 cm以上	8		
	5 隆起(图	隆起量)		20 cm未満	7	20~50 cm未	満	8	50 cm以上	9		
	6 湧水、	噴砂		□無 ☑有→+1点(上の	の点数	に1点加える	5)					
	変形状態の	チェック	ク(複数可)	小			中		大			
	1 クラック	ク(幅)		3 cm未満又は単数	1	3~15 cm未 数	満又は複	2	15 cm以上又は全面	3		
	2 ハラミ(隆起量)		10 cm未満	3	10~30 cm未	満	4	30 cm以上	5		
	3 ガリー	曼食		クラックなどが誘因 となって雨滴による 浸食が現れはじめた 段階。	6	のり面の表土が雨裂 に陥没するなど放置 していると被害が広 7 がるおそれのあるも の。		洞穴状や滝壺状にガ リーが進展して家屋 の基礎やのり面等の 下側に被害を及ぼす ような状態。	8			
の り	4 滑落・月	崩壊		部分的な表層すべり、又はのり面上部 の小崩壊。	7	表で、な状は、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで	れたよう 置すると それのり 面	8	全面的なすべり崩壊 で、さらに拡大のお それがあるもの、又 はのり面底部を含む 全崩壊。	9		
面・自	5 のり面((植生)	呆護工の には除く		例えば、のり枠の間 詰めいというでははにいる。 がはないではないですがいたがいできますができますがです。 がはないではないできますができますができます。 がはない程度。	7	例えば、の 分的なサート クラックラック 没・ずれが れる。	り枠の部 。又はコ 吹付工の 部分で陥	8	例えば、のり枠の浮上り破壊。又はコンクリート吹付工のラス金網が露出し、コンクリート吹付面にも破損が見受けられる。	9		
然斜	6 排水施設	没の変状		天端排水溝にずれ、 欠損がある。又は、天 端背面、舗装面にク ラックが見られる。	3	左に加え、 クラック、 からの湧水	又は目地	5	排水溝が破断沈下す るなど、排水機能が 失われている。	7		
面	7 のり面内	の水道管	等の破裂	破裂して水が流出して	いる。					8		
	8 湧水、河	落石・転	活	□無 □有→+1 点(上の	D点数	に1点加える)					
	※基礎点に変状 ※無被害の場合		を加えた点数	5	点	無被害:	0 点個	方災上	数と危険度判定☆ 問題無し) は防災上問題無し)			
	危	宣 険度半	川定	□大 □大 □大 □ □ □大 □ □大 □ □ 						雠)		
	所見記入者	の意見)	緊急度	口大 1分中 口小	N	(人命	財産・交	ぎ通の 3	3点を判断基準とする。)		
	※無被害の場合は		拡大の見込	☑有 □無 □¥	削断不	可 (備考	:)		

(様式-2)宅地地盤/のり面・自然斜面被害状況調査・危険度判定票



	のり面・自然斜面の基礎的条件												
ألد دائل	岩□眞	吹岩 □荷	更岩 ▼不明	オー	バーハング	■無 □有	î						
地類	土 砂 💆	沙質土□礫貿	質土□粘性土□不明	排刀	k施設			肩、小段排水)					
	/ ш ю	大高 (8 m(平均高 7 m)	のり)面保護工	☑無 □框	性土	□構造物					
(複合	合のり面は擁壁高含) (う	ち擁壁高	なし m)		き配置 <i>なし</i>	□のり面の	上部	□のり面の中部					
	り面勾配		45 度			口のり面の		□全面					
のり	り長さ		11 m	家屋	尼の有無	上部 口有	î ⊻ 無	無 : 下部 □有 ☑無					
			変 状 形 態	٤	配点表	旻							
	変形状態のチェック(複	数可)	小			中		大					
宅	1 クラック(幅)		3 cm未満	1	3~15cm 未清 複数	満又は	3	15cm 以上又は全面	5				
地	2 陥没(深さ)		20 cm未満	2	20~50 cm未	満	4	50 cm以上	6				
地	3 沈下(沈下量)		10 cm未満	2	10~25 cm未	満	4	25 cm以上	7				
盤	4 段差(段差量)		20 cm未満	3	20~50 cm未	満	5	50 cm以上	8				
	5 隆起(隆起量)		20 cm未満	7	20~50 cm未	満	8	50 cm以上	9				
	6 湧水、噴砂		□無 □有→+1点(上	の点数	(に 1 点加える	5)							
	変形状態のチェック(複	数可)	小			中		大					
	1 クラック(幅)		3 cm未満又は単数	1	3~15 cm未 数	満又は複	2	15 cm以上又は全面	3				
	2 ハラミ(隆起量)		10 cm未満	3	10~30 cm未	満	4	30 cm以上	5				
	3 ガリー浸食		クラックなどが誘因 となって雨滴による 浸食が現れはじめた 段階。	6	のり面の にている いる いる がる の。	など放置 被害が広	7	洞穴状や滝壺状にガ リーが進展して家屋 の基礎やのり面等の 下側に被害を及ぼす ような状態。	8				
の り	4 滑落(崩壊)		部分的な表層すべり、又はのり面上部 の小崩壊。	7	表で、な状はものでのでである。	れたよう 置するとあ はのり面	8	全面的なすべり崩壊 で、さらに拡大のお それがあるもの、又 はのり面底部を含む 全崩壊。	9				
面・自	5 のり面保護工の変物 (植生工は除く)		例えば、のり枠の間 詰め陥没。又はコン クリート吹付工にわ ずかにテンションク ラックが見られるが 吹付工のずれは認め られない程度。	7	例えば、の 分的なリークラック クラずれが れる。	。又はコ 吹付工の 部分で陥	8	例えば、のり枠の浮上り破壊。又はコンクリート吹付工のラス金網が露出し、コンクリート吹付面にも破損が見受けられる。	9				
然斜云	6 排水施設の変状		天端排水溝にずれ、 欠損がある。又は、天 端背面、舗装面にク ラックが見られる。	3	左に加え、 クラック、 からの湧水	又は目地	5	排水溝が破断沈下するなど、排水機能が 失われている。	7				
画	7 のり面内の水道管等の	破裂	破裂して水が流出して	いる。					8				
	8 湧水、落石・転石		□無 □有→+1 点(上の	の点数	に1点加える)							
	被害の判定値 ※基礎点に変状点の最大値を加 ※無被害の場合は基礎・変状点の		9	点	無被害:	0 点()	步災上	数と危険度判定☆ 問題無し) 防災上問題無し)					
	危険度判定		☑大 □中 □小	中被害: 4 ~ 7点(制限付き立入。進行していれば避 大被害): 8 ~10点(危険、要避難、立入禁止)					維)				
	所見記入者の意見	急 度	口大 台中 口/	<u>γ</u>	(人命	・財産・交	通の	3 点を判断基準とする。)				
	※無対害の担公子は第一	大の見込	□有 ☑無 □判断不可 (備考:)				

(様式-2)宅地地盤/のり面・自然斜面被害状況調査・危険度判定票

= m•		<u></u> -	調査日時	○年	○月	0	日 ○時	調査番号	<u> </u>	7-2
調	査	票	地震名又	は降雨災害	名	○地震			1	_
被宝子	全 生 場	前	00	都道府	県) (0	市郡	(00	区町村
11/2 😝 🦪		771			地区 団地	1	9 丁目	İ	8 番	<i>7</i> 号
	管理者氏		名無 三月		己入者氏名		<u>x-</u>	TEL: 098	7-65-4321	
所有者連	管理者絡	の 生 大 TEL:	(O市O町 0234-56-78		居住者への 説 明	□済	☑ 未了 ☑ 居住	者不在	□老人独	居住宅
	<	〈被 分	災 状	況 🗵	Z >		応急抗 □被災		口未了 易記録	
	宅	地 地	盤			の	り 面・	1	斜面	
1.クラック	2.陥没	3.沈下	4.段差	5.隆起	1.クラック	2-1.ハラ	ミ 2-2.盤ぶくれ	3.カリー浸食	4-1.滑落	4-2.崩壊
-				100 To 1100					表形すべり	円数すべり
5.のり面付	- 呆護工変状	6.排水施	設の変状	Į.			<u> </u>			
	枠内土砂流出 (枠浮上り)			ことができ ただし、	る。 調査箇所か	が分かる	易記録をするよう判定結果 よう判定結果 な撮影する	!を住宅地図		
20㎡	30m	朝霧北		真真			自然斜面の		倒木	
被災写	真の有無	□無	☑有→	写真番号[D-2	1)~6]
特記	事 項			すべりでは 必要であろ		方に民業	家があり斜面。	にもキレツぇ	があって二る	ヤ災害のお

	のり面・自然斜面の基礎的条件												
rat. d	rit.	岩	□軟岩 □研	更岩 ☑ 不明	オー	バーハング	☑無 □有	i					
地拉	强	土 砂	□砂質土☑礫貿	質土□粘性土□不明	排力	k施設	☑無 □有	す(のり履	肩、小段排水)				
の	の面高		最大高	8 m(平均高 6 m)	01) 面保護工	☑無 □框	生土	□構造物				
	合のり面は擁	壁高含)	 (うち擁壁高	なし m)	Litati		□のり面の	上部	□のり面の中部				
の	の面勾配			<i>50</i> 度	→ 擁望	き配置 なし	□のり面の)下部	□全面				
の	り長さ			<i>30</i> m	家屋	尼の有無	上部□有		. 下部 12 有 □無				
				変 状 形 態	ځ	配点表	長						
	変形状態	のチェッ	ク(複数可)	小		HE M. A	中		大				
宅	1 クラ	ック(幅)		3 cm未満	1	3~15cm 未 複数	満又は	3	15cm 以上又は全面	5			
地地	2 陥没	(深さ)		20 cm未満	2	20~50 cm未	満	4	50 cm以上	6			
地	3 沈下	(沈下量)		10 cm未満	2	10~25 cm未	満	4	25 cm以上	7			
盤	4 段差	(段差量)		20 cm未満	3	20~50 cm未	満	5	50 cm以上	8			
	5 隆起	(隆起量)		20 cm未満	7	20~50 cm未	満	50 cm以上	9				
	6 湧水	、噴砂		□無 □有→+1点(上の	の点数	(に 1 点加える	5)						
	変形状態	のチェッ	ク(複数可)	小			中		大				
	1クラ	ック(幅)	•	3 cm未満又は単数	1	3~15 cm未 数	満又は複	$ 2\rangle$	15 cm以上又は全面	3			
	2 ハラ	ミ(隆起量)		10 cm未満	3	10~30 cm未	満	4	30 cm以上	5			
	3 ガリー	一浸食		クラックなどが誘因 となって雨滴による		のり面の表			洞穴状や滝壺状にガ リーが進展して家屋				
				浸食が現れはじめた	6				の基礎やのり面等の	8			
				段階。		がるおそれのあるも の。			下側に被害を及ぼす ような状態。				
	4 滑落	崩壊		部分的な表層すべ		表層すべりが進んで えぐり取られたよう			全面的なすべり崩壊				
				り、又はのり面上部 の小崩壊。	7	な状態。放	置すると	8	で、さらに拡大のお それがあるもの、又	9			
の					'	拡大するお るもの、又			はのり面底部を含む 全崩壊。	3			
ŋ						中部までの	崩壊。						
		面保護工の		例えば、のり枠の間 詰め陥没。又はコン		例えば、の 分的な破損			例えば、のり枠の浮 上り破壊。又はコン				
面	(旭3	三工は除く)	「品め陥役。又はコン 「クリート吹付工にわ」		プロな吸損			上り吸場。又はコン クリート吹付工のラ				
				ずかにテンションク	7	クラック語	部分で陥	8	ス金網が露出し、コ	9			
				ラックが見られるが 吹付工のずれは認め		没・ずれが れる。	見受けら		ンクリート吹付面に も破損が見受けられ				
自				られない程度。		41000			る吸痕が見受けられる。				
	6 排水	施設の変物	7	天端排水溝にずれ、		左に加え、			排水溝が破断沈下す				
然				欠損がある。又は、天 端背面、舗装面にク	3	クラック、 からの湧水		5	るなど、排水機能が 失われている。	7			
斜				ラックが見られる。		かりの傍外	γ-α)·ω.		X4740 CV.O.				
面	7 のり面	i内の水道や	等等の破裂	破裂して水が流出して	いる。					8			
	8 湧水、	落石・軸	运石	□無 □有→+1 点(上0	D点数	に1点加える)						
		被害の判	定値		_		☆被害程	度の点	数と危険度判定☆				
		状点の最大値	道を加えた点数	8	点	無被害:	0 点修	方災上	問題無し)				
	※無被害の場	台は基礎・変	状点の記載無し	<u> </u>	小被害:1~3点(当面は防災上問題無し)								
		左吸点				中被害:	4~7点(#	側限付き	ら立入。進行していれば避 難	錐)			
		危険度¥	1)正	☑大 □中 □小					要避難、立入禁止)				
	が見信され	者の意見	緊 急 度	☑大 □中 □/	`	(人命	• 財産・ 交	通の	3 点を判断基準とする。)			
	※無被害の場		拡大の見込	☑ 有 □無 □判断不可 (備考:)			
			1/4/(0/96/2		31-31 1	1 (htt).2	•			,			

(様式-2) 宅地地盤/のり面・自然斜面被害状況調査・危険度判定票

		調査日時			I OF	3 ○時	調査番号	1	E-2
調査	票	地震名又	 は降雨災制						
		〇〇者	『道 府 (県) 00	市加	3	00	区町	村
被害発生場	所			00 (地区)	-		「目	8 番	<i>7</i> 号
所有者・管理者氏	名	山野 次島	ß	記入者氏名	調査太	<i>郎</i> T	EL: 0987-6	5-4321	
所有者 · 管理者	の自宅	(〇市〇間	ፓ 9–6	居住者への	□済	▼未了.			
連絡	先 TEL: 02	234–56–789	0	説 明		居住者	肾不在 □	老人独居住	笔
	<被 災	火	況	× >	•		置 □済 □		
1	地 地 盤	ri.			<i>O</i>	り面・	自然斜		
1.クラック 2.陥没	3.沈下	4.段差	5.隆起	1.クラック	2-1.ハラミ	2-2.盤ぶくれ	3.ガリー浸食	4-1.滑落	4-2.崩壊
			NIL OF THE			J		表層すべり	月至す ~り
5.のり面保護工変状	6.排水施言	費の変状							
 枠内土砂流出 (枠浮上り)			できる。 ただし、	盤・宅地のり面 調査箇所が分 ごきる全景写	みかるよう	判定結果を信		, , , ,	
			*		I	延長	₹ # 960m		
				N.		A	<i>¥950m</i>		
				推定地位	緬			7 家屋崩	<i>博、倒壊</i>
F-24 F-1071 1 - 101				,	\wedge				
のカル か 告	版學表現			T 7/		Σ /	~/		
[[] [] [] [] [] [] [] [] [] [ر آج	まさ ///	////	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \			
tig を	153 Pin C	V 18 1130	/約2	20m 1/2	/////	× 1	盛士	910m - 30	
	15 日 中 中氏 以 水 次 粉印 然 棒本	/	/	1	<i>\\\\\\</i>	M		- ~~~~~~)
武雄 田中幸雄 蔵爪 65	ina 茂			/	/ '///	//////X/		<i>4111111</i>	7//.
1801 - 36	7013			/ 大きな段	差	\	\ <u></u>		
「藤藤」 山 平 安田	ê	\checkmark		7,070	/_L	<i>摊壁(</i>	練石積み)	崩壞	
切点一	安 1			11h=±	Λ•Ю##⇔⊥	<i>Th≡ C∩</i> ∨	′50m×10m≒3	20000m³	
道 普				149 ·	ヘク1度ルユ	OF COUIT	JOHIN TOHIT	occom	
質	100	m	_/-						
市 市 市 現村	理		Ž						
原初 新 新 原 例 例 例 例 例 例 例 例 例	IN BE	I E S	M. Jak						
赤拉									
11.			1						
	<i>>></i>	· 漢本/	\Rightarrow						
日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	カサベラ大配合	//. /°043	-11						
	7 ~	At the	$\mathcal{J}(\theta)$						
	[平]	面図]				[断面]	図]		
被災写真の有無			→写真番号	[<i>D-2</i>	1 ~ 6	- > 1 pood F	_]
10-72 4 37 - 5 14 W				にば進行する		ばある 面に	一十%生仁~	つかがスぷ	
#: ३ 7 - 3 7 - 3 7	立入禁止に			<i>•101</i>	, -, AG (I //	グツ。丈に	八次可比。	~ ~ // ~ ~ /\!	1 6/1 00 00 0
特 記 事 項	地すべり	の進行方	向には住生	宅があり、二 な対策が必		れれば大災	害になる可	能性が十	分にある。

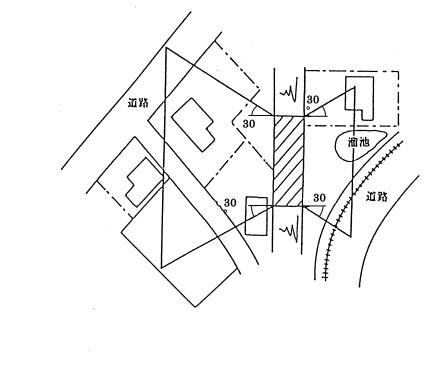
	のり面・自然斜面の基礎的条件												
地型	程	岩	□軟岩 □研	更岩 □不明	オー	バーハング	☑無 □1						
7世至	抢	土 砂	☑砂質土□礫貿	質土□粘性土□不明	排ス	k施設	□無■有	写(のり〕	肩、小段排水)				
の	り面高		最大高 20	0 m(平均高 10×2 m)	のり)面保護工	☑無 □析	直生土	□構造物				
(複合	合のり面は排	確壁高含)	(うち擁壁高	5×2 m)	- 協居	き配置	口のり面の		□のり面の中部				
の	り面勾配			30 度	19年至	E印 国	■のり面の		□全面				
の	り長さ			⁹ m 2	家屋	屋の有無	上部 🗹	有 口無	票 : 下部 ☑有 □無				
				変 状 形 態	ک	配点	長						
	変形状態	態のチェッ	ク(複数可)	小			中		大				
宅	1 クラ	ラック(幅)		3 cm未満	1	3~15cm 未注 複数	満又は	3	15cm 以上又は全面	5			
地	2 陥	ひ(深さ)		20 cm未満	2	20~50 cm未	満	4	50 cm以上	6			
地	3 沈	下(沈下量)		10 cm未満	2	10~25 cm未	満	4	25 cm以上	7			
盤	4 段差	差(段差量)		20 cm未満	3	20~50 cm未	満	5	50 cm以上	8			
	5 隆起	記(隆起量)		20 cm未満	7	20~50 cm未		8	50 cm以上	9			
	6 湧	k、噴砂		□無 □有→+1点(上	の点数	に1点加える	5)		1				
		態のチェッ	ク(複数可)	小			中		大				
	1 クラ	ック(幅)		3 cm未満又は単数	1	3~15 cm未 数	満又は複	2	15 cm以上又は全面	3			
	2 ハラ	ミ(隆起量)		10 cm未満	3	10~30 cm未	満	4	30 cm以上	5			
	3 ガリ	一浸食		クラックなどが誘因		のり面の表			洞穴状や滝壺状にガ				
				となって雨滴による 浸食が現れはじめた	6	に陥没する していると		7	リーが進展して家屋 の基礎やのり面等の	8			
				段階。		がるおそれのあるも			下側に被害を及ぼす				
	4 MR ##	山田		かためを ま見よい					ような状態。				
	4 쀢洛 	(崩壊)		部分的な表層すべり、又はのり面上部		表贈すへり えぐり取ら			全面的なすべり崩壊 で、さらに拡大のお				
				の小崩壊。	7	な状態。放	置すると	8	それがあるもの、又	9			
の					'	拡大するお るもの、又			はのり面底部を含む 全崩壊。				
ŋ						つもの、又			(主朋 场 。				
		面保護工の		例えば、のり枠の間		例えば、の	り枠の部		例えば、のり枠の浮				
面	(植	生工は除く)	おめ陥没。又はコン クリート吹付工にわ		分的な破損 ンクリート	。又はコール		上り破壊。又はコン クリート吹付工のラ				
				ずかにテンションク	7	クラック音		8	ス金網が露出し、コ	9			
•				ラックが見られるが		没・ずれが			ンクリート吹付面に				
自				吹付工のずれは認め られない程度。		れる。			も破損が見受けられ る。				
	6 排水	施設の変制	<i>†</i>	天端排水溝にずれ、		左に加え、	のり面の		排水溝が破断沈下す				
然				欠損がある。又は、天	3	クラック、		5	るなど、排水機能が	7			
斜				端背面、舗装面にクラックが見られる。		からの湧水	かある。		失われている。				
面	7 のり	面内の水道管	管等の破裂	破裂して水が流出して	いる。	ı		1	1	8			
	8 湧水	、落石・轅	云石	□無 □有→+1 点(上0	の点数	に1点加える	,)						
		被害の判					☆被害程	度の点	数と危険度判定☆				
		変状点の最大値	を加えた点数	9	点	無被害:	0 点(图		問題無し)				
	※無被害の	易合は基礎・変 	状点の記載無し	<u> </u>		小被害:	1~3点()	当面は	防災上問題無し)				
		 危険度¥	11字	☑大 □中 □小		中被害:	4~7点(#	削限付き	き立入。進行していれば避難	難)			
		旭	TIVE		一無	大被害	8~10点(危険、	要避難、立入禁止)				
	所見信	入者の意見	緊急度	▼大 □中 □/	l /	(人命	財産・交	で通の	3点を判断基準とする。)			
		場合は遺無し	拡大の見込		判断不	可 (備考	:)			

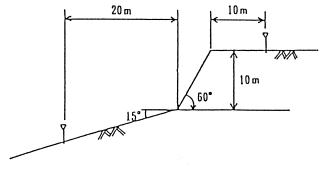
(様式-3)擁壁・のり面の崩壊に伴う影響範囲図

地震名又は降雨災害名 〇〇地震	調査番号 F-1	
-----------------	----------	--

	擁壁・のり面の危険度評価 「小 被 害 〕	影			i所 1)		5		
	中被害 大被害	*	響		災 範 D ₂ (n	i囲 n)=D ₁ +H			15
擁壁	[擁壁 のり面] 高さ H(m)	10	範	水	下	L1(m) β < 15°	$\begin{cases} \alpha < 45^{\circ} \\ 45^{\circ} \leq \alpha < 60^{\circ} \\ 60^{\circ} \leq \end{cases}$: 0.6H : 0.9H : 1.3H	
生・のり面条件	「擁壁 のり面」 勾配 α(°)	60	囲の	平距	端	$L2(m)$ $\beta \ge 15^{\circ}$	$ \begin{array}{c c} & \alpha < 45^{\circ} \\ & 45^{\circ} \leq \alpha < 60^{\circ} \\ & 60^{\circ} \leq \end{array} $: H : 1.5H : 2.0H	20
条件	地表面勾配 β(°)	15		離	上端	L' (m)	$ \begin{array}{c} \alpha < 45^{\circ} \\ 45^{\circ} \leq \alpha < 60^{\circ} \\ 60^{\circ} \leq \end{array} $: 0.4H : 0.6H : H	10

被災した擁壁・のり面と宅地・建物等の位置関係図





被災宅地危険度判定結果

危険芜地

UNSAFE

- ◆ この宅地に入ることは危険です
- ◆ 立ち入る場合や復旧にあたっては専門家に相談して下さい
- ◆ この判定は二次災害の軽減・防止を目的としています
- ◆ この判定は宅地に係るもので、建築物の判定ではありません
- ◆ この判定は「罹災証明」に係る調査ではありません

	一性火皿	را ال	一下 'ひ 四門.	E CIOU	77	5 E 70	
注記:							
調査番号							
判定日時	年	月	B	午前・	午後	<u> </u>	時現在
		(災害	対策本部)		電	話()
		宅地危険	度判定実	施本部		_	

被災宅地危険度判定結果

要注意思知

LIMITED ENTRY

- ◆ この宅地に入る場合は十分注意して下さい
- ◆ 応急的に補強する場合は専門家にご相談下さい
- ◆ この判定は二次災害の軽減・防止を目的としています
- ◆ この判定は宅地に係るもので、建築物の判定ではありません
- ◆ この判定は「罹災証明」に係る調査ではありません

注記:							
調査番号							
判定日時	年	月	日	午前·	午後	Ź	時現在
		(災害	'対策本部)		電	話()
		宅地危险	険度判定 実	施本部		_	
_							

被災宅地危険度判定結果

INSPECTED

- ◆ この宅地の被災度は小さいと考えられます
- ◆ この判定は二次災害の軽減・防止を目的としています
- ◆ この判定は宅地に係るもので、建築物の判定ではありません
- ◆ この判定は「罹災証明」に係る調査ではありません

注記:						
調査番号						
判定日時	年	月	日	午前•午	後	時現在
		(災害	対策本部)	電	話()
		宅地危険度判定実施本部			_	